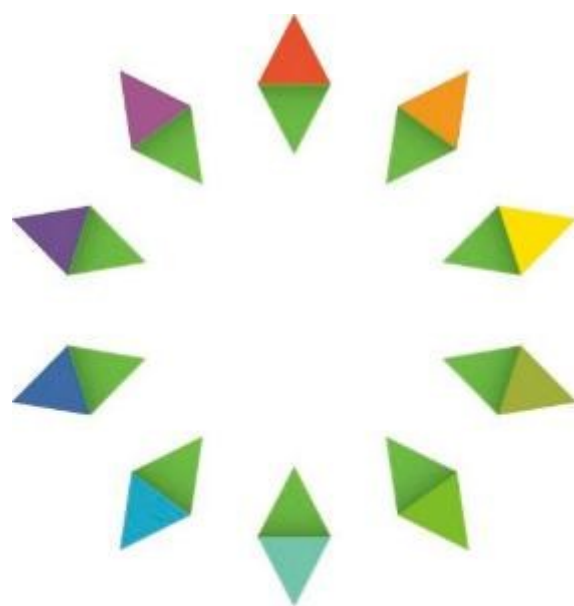


阿蘇くじゅう観光圏整備計画

令和5年度～令和9年度



ASO Caldera volcano

Grassland Crown filled with soul

令和5年3月

熊本県阿蘇市、阿蘇郡南小国町・小国町・産山村・高森町・南阿蘇村・西原村、
上益城郡山都町、大分県竹田市、宮崎県西臼杵郡高千穂町

目次

1. 計画策定の経緯と目的	1
2. 観光地域づくりの現状と課題	
(1) 観光圏を取り巻く状況の変化	2
(2) 前期計画に基づく事業の取組み状況	3
(3) KPI の達成状況	10
(4) 来訪者の状況	12
(5) 阿蘇くじゅう観光圏を取り巻く観光の動向	15
(6) 上位・関連計画	16
①上位計画	
②各市町村の観光の方向性	
③関連計画	
(7) 課題把握	24
3. 基本的事項	
(1) 観光圏の区域	25
①区域の地理的範囲、観光圏を構成する都道府県及び市町村名	
②設定理由	
③エリア毎の観光の概要	
(2) 滞在促進地区の区域	37
①滞在促進地区	
②交流地区	
4. 観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本的な方針	
(1) 地域に根差した固有の魅力	41
(2) ブランドコンセプト	42
(3) 基本方針	43
①基本理念	
②基本方針	
(4) ターゲットの設定	45
5. 観光圏整備事業	
(1) 整備事業の概要	48
(2) 計画期間等	53
(3) 観光圏整備事業の実施体制	54
(4) 観光圏整備計画の目標 (KPI)	55
(5) 住民その他の利害関係者の意見を反映させるための措置及び反映内容	59
(6) 地域住民の観光地域づくりに対する意識啓発と参加促進を目指すための取組み	61
6. 協議会に関する資料等	62

1. 計画策定の経緯と目的

阿蘇くじゅう観光圏は、数十万年にわたる火山活動で作り出された世界有数☆巨大なカルデラや、多く☆火山体で構成される火山群、草原によって連なるくじゅう山群、火山活動によって形成された高千穂峡など、雄大な自然と豊かな歴史を誇る九州を代表する観光地である。また、ユネスコ世界ジオパーク、世界農業遺産、ユネスコエコパーク等☆認定を受けており、今後☆世界文化遺産登録へ向けた動きも進められている。こ☆ほか、環境省が推進する国立公園満喫プロジェクトにおいて、先行的・集中的に取り組むを実施する国立公園にも選定されている。

当観光圏においては、平成 20 年制定☆「観光圏☆整備による観光旅客☆来訪及び滞在☆促進に関する法律」(観光圏整備法)に基づき、同年 10 月に法整備後初めてとなる観光圏整備実施計画☆認定を受け、上記☆取組みと連携し、国際競争力☆高い魅力ある観光地域づくりに取り組んできた。そ☆後、5年に一度☆計画☆見直しを行いながら、平成 30 年4月に、観光庁より引き続き令和4年度まで☆観光圏整備計画☆認定を受けた。

現在、策定から5年が経過し、「住んでよし、訪れてよし」☆当観光圏が一体となった滞在交流型☆観光地域づくり☆取組みが進む一方で、社会環境☆変化から新たな課題等も発生している。特に、平成 28 年に発生した熊本地震では、当観光圏☆大部分が甚大な被害を受けたが、そ☆後復興が進み、令和5年度☆南阿蘇鉄道全面開通や阿蘇神社楼門☆復旧を残す☆みである。そ☆ような現状☆なか、世界的な新型コロナウイルス感染拡大により、順調に伸びて来た訪日外国人☆入り込み☆回復できない状態が続いており、観光産業はもとよりそ☆他☆関連産業にも大きな影響が生じている。

本計画は平成 30 年度から令和4年度☆「阿蘇くじゅう観光圏整備計画」☆次期計画であり、令和5年度から令和9年度☆5年間を区切りとし、前期計画を踏まえながら、より現状に即した事業を実施することを目的として策定する。「住んでよし、訪れてよし」☆当観光圏が一体となった滞在交流型☆観光地域づくりを推進することを目指すも☆である。



2. 観光地域づくりの現状と課題

(1) 観光圏を取り巻く状況の変化

①創造的復興の進捗

熊本県は平成 28 年☆熊本地震から☆「創造的復興」を掲げ、単に地震☆前☆姿に戻す☆ではなく、より良い状態にするため☆取組みが進められてきた。被害を受けた交通インフラについては、令和2年8月に JR 豊肥本線（肥後大津～阿蘇間）が全面開通、令和2年 10 月に阿蘇市☆国道 57 号北側復旧ルート（二重峠トンネル）および南阿蘇村☆国道 57 号現道ルートが開通、令和3年3月に新阿蘇大橋が開通し、令和5年度☆南阿蘇鉄道☆全面開通を残す☆みである。

また、熊本地震や阿蘇中岳☆噴火で被災した阿蘇山ロープウェイについては、火山活動☆終息☆見通しが見つからないことなどから復旧が断念されている。

②新型コロナウイルスの拡大

令和2年からは新型コロナウイルス☆世界的な感染拡大☆影響により国内外から☆観光客が大きく減少し、コロナ禍以前と比べ観光業や飲食業、農業にも深刻な影響を及ぼしている。特にインバウンドについては海外から☆渡航制限等☆徹底した水際対策が続いたことが影響し、外国人宿泊者数が大きく減少した。国内においても遠方から☆観光客が激減する中、宿泊施設や観光施設で☆感染拡大防止策☆徹底や、県内・隣県在住者を対象とした旅行助成事業「熊本県民割」や対象を全国へと広げた「GoTo トラベル」・「全国旅行支援」など☆旅行需要☆喚起により、宿泊施設☆稼働率や旅行消費額☆回復を目指している。

③地域の人材育成の事業実施

（公財）阿蘇地域振興デザインセンターは、復興に向けた住民主体☆活動☆支援や、人材☆発掘と育成に注力するため☆人材育成事業を、市町村を横断しながら実施した。『あそ未来創造塾』は、熊本大学や企業と連携し地域課題に対してビジネスを通じて解決策を探求するため、『阿蘇地域観光リーダー養成講座』は観光に関してマーケティングや課題解決・企画作成能力☆向上☆ため、『素敵女子☆おしゃべり時間』は地域☆女性がもつ資質を観光地域づくり☆場で活かすつながりづくり☆ためにそれぞれ実施した。

④日本版DMO（地域連携）法人としての活動

平成 30 年3月には（公財）阿蘇地域振興デザインセンターが「日本版 DMO」として登録され、観光客と地域住民双方に配慮しながら、広域周遊型・持続可能な観光地域づくりを目指した取組みを進めてきた。

また、観光地域づくりマネージャー☆育成研修により新たな認定者を増やし、すでに活動しているマネージャーは令和4年3月時点で 12 人となり、観光圏内すべて☆市町村に配置された。行政職員だけでなく観光協会や事業者等、多様な職種☆人材が在籍しており、全国観光圏で☆レベルアップ研修へ☆参加や全国観光圏共通事業☆実施等☆取組みを行った。

(2) 前期計画に基づく事業の取組み状況

前期計画方針に基づく主な取組みと成果、それを踏まえた今後☆方向性を以下に示す。

方針①世界ブランド“阿蘇カルデラ” のさらなる推進

【成果】

ボランティアによる草原再生☆取組みへ☆支援が継続され、観光圏☆代表的な草原☆景観保全につながっている。また、ユネスコ世界ジオパークや世界農業遺産☆ブランド力を活用した食☆魅力発信や販売促進が行われてきた。

【課題】

草原維持☆ため☆ボランティア定着率向上など、草原再生☆担い手確保は継続課題である。ユネスコ世界ジオパークやエコパーク、世界農業遺産、重要文化的景観など、広域で認められている価値を活用し、観光誘客や滞在へつなげる取組みが必要である。

番号	前期計画の基本的な方針	主な取組み	成果及び今後の方向性
a	阿蘇くじゅう高千穂らしい景観や地域資源の保全・創出とブランドマネジメントの推進	草原再生に向けた取組み	高齢化や人口減少による担い手不足のため、支援を望む地元牧野ではボランティアによる輪地切り・野焼き支援が継続され、平成 30 年には、144ha の野焼きが再開された。（ボランティアの延べ参加人数：平成 30 年度 2,707 名 → 令和元年度 2,300 名 → 令和 2 年度 2,212 名 → 令和 3 年度 2,351 名） ボランティア活動の安全管理や、定着率を高める施策の検討が必要となる。
		ユネスコ世界ジオパーク、ユネスコエコパークの推進	地域内外で阿蘇ユネスコ世界ジオパークの理解を促進し、商品の販売促進に貢献するため、平成 30 年に「阿蘇ジオパーク認定品」として、スイーツ、あか牛料理、漬物などの 71 品を認定した。認定品増加のために、認定品の認知度向上に努力していく必要がある。
		日本で最も美しい村連合の活動	日本で最も美しい村連合阿蘇支部を設立し、高森町と南小国町によるプロモーションや周遊イベントなどが実施されている。
b	地域ならではの「食」を活用した取組み	阿蘇グリーンツーリズムや温泉ガストロノミーツーリズムの推進	平成 29 年度から阿蘇内牧温泉を拠点として、食・自然・文化・歴史を体感しながら巡るイベント「ONSEN・ガストロノミーウォーキング」が継続して開催されている。（参加者数：例年 300 人程度）
		世界農業遺産関連の取組み	「阿蘇の食卓（阿蘇地域世界農業遺産特別編集号）」として冊子を発行した。阿蘇地域固有の農産品や食材を使用した食文化の魅力を発信し、食を通じた関係人口を創出するため、農・畜産物とその生産者、飲食店等を紹介している。 フットパスコースの開発やアプリとの連動、サイクリングのための整備、草原を観光資源として利用するための地元との協議などが市町村にとらわれず広域的に進められた。
		各地域におけるマルシェの開催	平成 30～令和元年度には、阿蘇ジオパーク認定品の PR と販売促進の一環として、島原半島ジオマルシェ、熊本市びぶれす広場での ASO カルデラマルシェの出店や、熊本市鶴屋百貨店にてジオパークフェアを開催した。

方針②阿蘇くじゅう高千穂地域全体の広域的なつながりや地域独自の魅力向上

【成果】

観光圏内で、地域通訳案内士やジオパークガイド、牧野ガイドなど、多様なガイドを育成している。またフットパスやサイクリング環境☆整備、地域資源を活かした滞在交流型プログラム☆提供など、各地域で☆コンテンツ☆強化を図っている。併せて、観光圏☆ポータルサイト「阿蘇ナビ」や SNS、配布用☆マップ☆充実など、観光圏全体で☆情報発信に取り組んできた。

【課題】

ガイド☆人材育成が進む中で、地域☆観光☆担い手は少子高齢化やコロナ禍で不足しており、感染症対策に配慮した企画☆検討や運営体制☆充実が求められる。また、滞在促進地区間☆連携は阿蘇郡市内ではみられるが、山都町や竹田市・高千穂町と連携したも☆はなく、今後はエリア内、観光圏全体で☆連携☆強化が必要となる。

番号	前期計画の基本的な方針	主な取組み	成果及び今後の方向性
c	滞在交流型の観光地域づくりを推進するための滞在コンテンツ・プログラムの創出と提供	「阿蘇ガイド」の養成	阿蘇ガイド、地域通訳案内士、阿蘇ジオガイドなどの登録者を増やしている。コロナウイルスの影響による活躍の場の減少は余儀なくされているが、体制の強化は進められている。
		農泊等、各地域における体験型観光の推進	主たる滞在促進地区（内牧温泉）では、海外からの長期滞在客やリピーターの増加を目的に、温泉とアドベンチャー、ウェルネスを活用したコンテンツの磨き上げと販売体制の強化を図った。 観光圏内では「ジャパンエコトラック」などアウトドアイベントも活発に開催され、遠方からの参加者の宿泊にもつながった。 各地域では、「ASO 絶景満喫ライド」「高森じかん」「カルデラツアー」「夜の山散歩」「竹田式湯治」などの取組みが継続されている。 コンテンツの充実が見られる一方で、地域の案内人や担い手不足や、コロナウイルス感染症によって食・農泊関連のコンテンツが難しくなっている。個人客が増えたことで受付の負担が増えている。
d	阿蘇くじゅう高千穂地域全体のワンストップ窓口の設置	既存 Web サイト（阿蘇ナビ）の継続・強化	平成 30 年度に阿蘇くじゅう観光圏のポータルサイト阿蘇ナビをリニューアルし、多言語への対応、検索機能の強化を行った。令和 2 年度に管理者を変更し、令和 3 年度には阿蘇くじゅう観光圏 HP との統合を完了し、さらにコンテンツを追加して、「阿蘇の食卓」「阿蘇フットパスコース」「サクラクオリティ」「阿蘇くじゅうフリーWi-Fi マップ」の内容を充実させた。
		阿蘇地域内外への窓口又は情報発信ツールの設置	観光圏内をまとめた「阿蘇くじゅう高千穂ツーリストマップ」の日本語版の増版および英語版を追加で作成し WEB 公開をした。また、Wi-Fi スポットのマップも作成し WEB 公開をはじめた。 WEB の内容充実に加え、SNS などを活用し最新情報を発信していく必要性から、（公財）阿蘇地域振興デザインセンターHP、Instagram、Facebook を活用し情報発信を積極的に行った。Instagram のフォロワーが順調に増加している。（フォロワー数：令和元年 1,023 → 令和 2 年 1,811 → 令和 3 年 2,024）

方針③観光顧客のニーズに着実に応える施策の実施による国際競争力の向上

【成果】

サクラクオリティ認定施設数は全国トップクラスとなり、あわせて HP「阿蘇ナビ」☆多言語化、Wi-Fi スポット☆整備とマップ☆作成、地元事業者向け☆キャッシュレス説明会を行うなど、外国人を含めた旅行者☆ニーズに応えるため☆取組みを進めてきた。また、来訪者☆ニーズを把握するために、観光圏内で☆マーケティング調査も継続して行ってきた。

【課題】

来訪者☆ニーズを適切に把握するために、アンケート☆サンプル数を増やす工夫や、新規顧客獲得☆ために観光圏外で☆マーケティングも考えられる。また外国人受入環境整備については、ニーズ☆適切な把握とともに、Wi-Fi スポット☆利用促進やキャッシュレス☆さらなる普及等に取り組む必要がある。

番号	前期計画の基本的な方針	主な取組み	成果及び今後の方向性
e	宿泊施設の魅力向上への取組み	サクラクオリティの認定及び情報発信	観光品質認証制度「サクラクオリティ」の約 300 ある調査項目をすべて精査し、より高い精度の調査になるよう調査項目を改定した。また、改定版における調査員研修及び施設認証を行った。サクラクオリティの認定施設数は 23 となり、全国でトップクラスとなった。今後は、アフターコロナを見据え、衛生面での周知を図るなど広報を徹底する必要がある。 (サクラクオリティ新規登録施設数：平成 30 年度 7 件 → 令和元年度 1 件 → 令和 2 年度以降 0 件) (導入施設の外国人の延べ宿泊者数：平成 30 年度 12,321 名 → 令和元年度 25,451 名 → 令和 2 年度 0 名 → 令和 3 年度 68 名)
f	マーケティング等によるサービス品質・安全性の確保	全国観光圏共通マーケティング調査	来訪者の満足度やニーズを把握することを目的とし、全国の観光圏で共通の満足度調査を実施した。「対面聞き取り」「宿泊施設留置き」の方法に加え、WEB アンケートツールの仕組みの構築や、多言語調査票を用いて来訪する外国人の属性・消費額等の調査に取り組んだ。令和元年度から令和 4 年度はノベルティを渡す等の回収数増の工夫を行い、収集サンプル数の増加につながった。
		各滞在促進地区における詳細なマーケティング調査	令和 3 年度は、3 箇所 1 日間で対面聞き取り方式を行った。(収集サンプル数：平成 30 年度 315 件 → 令和元年度 436 件 → 令和 2 年度 129 件 → 令和 3 年度 326 件) サンプル数が目標に達していない状況であり、今後も、回収数を伸ばしてデータの精度をあげていくとともに、対面聞き取り方式による調査や訪日外国人向けのヒアリングを強化していく必要がある。

番号	前期計画の基本的な方針	主な取組み	成果及び今後の方向性
g	外国人受入環境の整備	外国人旅行者のニーズ調査	令和4年度は、阿蘇地域の数箇所では対面聞き取り方式による調査や訪日外国人向けのヒアリングを実施した。
		パンフレット、Web サイト等の多言語化	平成30年度にはHP「阿蘇ナビ」をリニューアルし、「サクラクオリティ」のページとあわせて多言語への対応を行った。 「阿蘇くじゅう高千穂ツーリストマップ」の英語版を作成・WEB公開した。 令和4年度には観光庁広域周遊事業を活用して、阿蘇くじゅう高千穂・豊の国千年ロマン観光圏パンフレットの英語版・繁体字版の制作を行った。
		スマートフォン等を活用した外国人受入体制の強化	Wi-Fi環境整備の促進のため、平成30年度に熊本県が推奨するくまもとフリーWi-Fiを活用したWi-Fiスポットを、道の駅3箇所、キャンプ場7箇所、町の交流広場1箇所に配置した。また、無料Wi-Fiスポットのマップを作成した。Wi-Fiの利用者数の増加や、維持・メンテナンスが今後の課題となる。 令和元年に観光庁から地域通訳案内士育成等計画の同意が得られ、同年より案内士の認定を継続している。 外国人旅行者受入強化のため、平成30年度～令和元年度は事業者向けキャッシュレス説明会を年5回ずつ行い、平成30年度は50件、令和元年度は122件の加入店舗を増やした。令和元年は目標値に達成した。 令和2～3年はキャッシュレス説明会を実施できず、加入店舗も得られなかった。今後も引き続き、外国人観光旅客受入強化のためのキャッシュレスの広報・普及に努めていく。
		おもてなしセミナーの開催	観光地域づくりセミナーにて、外国人旅行者の価値観や需要に関する理解を深めることを目的とし、阿蘇くじゅう観光圏の観光関係者、行政、一般住民などを対象にセミナーを開催した。

方針④観光地域づくりによる災害からの創造的復興

【成果】

地震により不通となっていた道路や鉄道、各施設☆復旧復興が進み、令和5年度☆南阿蘇鉄道☆開通や阿蘇神社楼門☆復旧を残す☆みとなった。災害遺構等については、被災した建物や農地等☆登録やサイン整備が進んだほか、南阿蘇村では旧東海大学阿蘇キャンパス校舎を活用した災害学習拠点☆整備と教育旅行プログラム☆受入れを進めた。

【課題】

交通網☆復興を受けて、観光圏内☆周遊を促進させるため、移動手段☆確保等については、行政や交通事業者等と☆連携強化等が必要となる。また、観光圏内に分布する災害遺構等を活用した新たなツーリズム☆企画を推進していく必要がある。阿蘇山上☆旅行者☆回復に向けても、効果的な情報発信と取組みが必要となる。

番号	前期計画の基本的な方針	主な取組み	成果及び今後の方向性
h	移動手段（二次交通）の確保等	南阿蘇鉄道の復興	令和2年3月の阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議書面会議の中で、南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発事業・立野駅周辺整備事業の事業承認について諮り、決議を得た。この議決をもとに、高森駅や立野駅の再開発事業が行われる予定であり、鉄道の復旧は令和5年7月15日を予定している。
		交通関係者との合意形成の場の創出	復旧した国道57号線代替ルート（二重の峠トンネルルート）、国道325号（阿蘇大橋ルート）、JR豊肥線などについて、二次交通の会議などを行い、対応を検討する必要がある。
		観光圏内への移動支援実証	観光圏内の二次交通手段の確保のため、直行バスの要望を行った。平成30年度にバスの時刻表を集約したパンフレットを作成した。
i	災害遺構等の活用による学習の場としての整備	ジオサイト等における災害学習の推進	熊本県観光連盟、熊本県ならびに2市1町2村（熊本市、阿蘇市、益城町、南阿蘇村、西原村）の連携による「防災・減災」をテーマとした教育旅行プログラムを造成し、熊本地震により、減少した修学旅行生の需要回復に向け取組みを行っている。その一環として、阿蘇火山博物館にて平成30年度より受入れを開始している。
		震災遺構の保存活用及びガイドに対する研修の実施	南阿蘇村では、東海大学阿蘇キャンパスの校舎を震災遺構として整備した。地震後の建築や家具等がそのまま見学できるように保存し、講話等を組み込んだ教育旅行プログラムとしての受け入れも開始した。 現地にてガイドを行う「震災・防災ガイド」は、5回以上の研修を実施し認定している。 県内の他市町村と連携し、回廊型フィールドミュージアム「記憶の廻廊」としての整備を進めている。南阿蘇村は地すべり箇所など全10箇所、西原村は断層のずれのある農地や仮設住宅など12箇所を登録し、サインの整備等の整備が行われている。
		その他	阿蘇山上観光復興推進会議を平成30年度から年2回を基本として開催した。令和2年度以降はアドバイザーとして慶応義塾大学特任教授の米田雅子氏を招へいし、阿蘇山上観光復興ビジョンの再整理や意見の集約を行い、今後の展開を協議・調整した。 観光事業者は未だ厳しい状況であり、今後も継続して情報共有と山上観光の復興につなげたい。

方針⑤地域住民による「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくり

【成果】

地域内外へ☆統合的な情報共有・発信については、全国観光圏推進協議会や九州3観光圏連携による情報発信事業やプロモーション動画作成、移住定住☆フェア・相談会へ☆出展を継続してきた。また、観光地域づくりマネージャー☆増員や能力向上☆取組みを行ってきた。大学や企業とも協働したセミナー☆開催や専門的なノウハウ☆提供など、実践的な人材☆育成を行ってきた。

【課題】

移住定住に関しては担当☆人材育成やネットワークづくり、情報発信☆強化が必要となる。外国人向け☆PR☆ためには、JNTO や OTA ☆活用も視野に入れる必要がある。

番号	前期計画の基本的な方針	主な取組み	成果及び今後の方向性
j	ブランドコンセプトに基づく地域内外への統合的な情報共有・発信	国内外における阿蘇くじゅう観光圏のPR	来訪者や旅行者の集客・誘客の促進、移住定住者を増加させることを目的として、令和元年度に動画を作成し、令和2年度にブラッシュアップした。令和3年度には地元劇団とコラボしたVR動画や外国語版の動画を作成した。今後は動画の観光イベント等での上映やYouTube等での発信を行っていく。 特に小国ブランドに関しては、小国杉のPR動画や映画制作、小国ジャージのデザイナー新や、新千円札の肖像画に決定した北里柴三郎氏に関する展示やイベントを開催し、ブランド力の向上につなげた。
		移住定住の促進	阿蘇地域における移住定住のPRを行った。令和元年度までは、「ふるさと帰郷フェア」（東京都）、「くまもと暮らしセミナーUIJターンお仕事編 in 名古屋」など遠方でのPRを行った。福岡市のショッピングセンターでの移住定住相談会は継続して行った。 今後も引き続き、観光圏内移住定住担当者の人材育成や先進地研修、ネットワークづくり、情報発信に力を入れていく。
k	官民・産業間・地域間との連携による地域一体の取組み	民間企業や教育機関との包括協定の締結	熊本大学とは、フットパス整備事業等の報告書作成業務や、動画作成事業、マーケティング調査員業務、イベントスタッフ等で連携を継続している。令和3年度に熊本大学熊本創生推進機構金岡省吾教授が当DMOの理事に就任した。同年より産、官、学、金融が連携した「あそみらい創造塾」を開講し、大学と共催している。 阿蘇地域の高校存続のため地域留学等の提唱を目的として、令和2年度に出前事業「阿蘇ジオパーク学」を行った。令和5年度に熊本県立高森高校に民間と連携した国際マンガ学科が誕生することとなり、注目が高まっている。

番号	前期計画の基本的な方針	主な取組み	成果及び今後の方向性
k	官民・産業間・地域間との連携による地域一体の取組み(続き)	全国観光圏推進協議会に関する取組み	全国観光圏推進協議会と連携し、観光圏へのインバウンド誘客のための「Undiscovered Japan」の情報発信を行った。WEB や SNS に加え、ツーリズム EXPO ジャパンへの出展など幅広く活動を行った。 今後外国人向け PR を行うためには、JNTO（日本政府観光局）との連携を図り、また、OTA（Online Travel Agent）の活用も視野に入れ活動を行う必要がある。
		九州 3 観光圏との連携	九州 3 観光圏連携事業として、台湾・香港向けのウェビナー、中九州 DMO 連携事業として欧米豪向けの情報発信事業を計画している。
		各日本版 DMO との連携	阿蘇地域管内の地域 DMO みなみあそ観光局や SMO 南小国と様々な事業で連携、情報交換をしている。また、観光圏内の地域 DMO 高千穂観光協会とは、情報発信についての連携について協議を重ねている。
l	地域住民及び関係者の理解と関与によるおもてなしの推進とリピーターの確保	観光地域づくりセミナーの開催	阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議の一環で、年 2 回のペースで観光地域づくりセミナーを開催してきた。令和 2 年度以降は女性の活躍についての活動発表や女性のネットワークづくりのためのセミナーを開催した。今後も現場で女性の活躍を実現するセミナーを実施していく。
		観光地域づくりリーダー等、観光を担う人材の育成	観光地域づくりマネージャーに関しては、全国の観光圏が連携したオンラインでのステップアップ研修への参加や、育成セミナーにより新たなマネージャーの登録などを行った。現在、すべての構成市町村に観光地域づくりマネージャーが配置されている。 令和 3 年度より熊本大学や企業と連携した「あそみらい創造塾」を開講し、地域課題に対してビジネスを通じて解決策を探索するカリキュラムを実施した。11 名の受講者は 7 回の講義と 3 回の演習を行い、修了式後もビジネスプランの実行に向けた動きがみられている。 阿蘇地域の観光人材の育成・ネットワークづくりを目的に令和 3 年度より阿蘇地域観光リーダー育成講座を開催した。1 期生 10 名 2 期生 12 名が阿蘇地域の観光資源を活かしたプランを発表し修了している。
		地域住民への啓発活動	年 2 回程度、地域づくりセミナーとして、地域づくりや人口減少社会、過疎問題をテーマに開催した。また、女性の社会進出などをテーマに「素敵女子のおしゃべり時間」イベントを地域住民への啓発活動を目的に開催している。

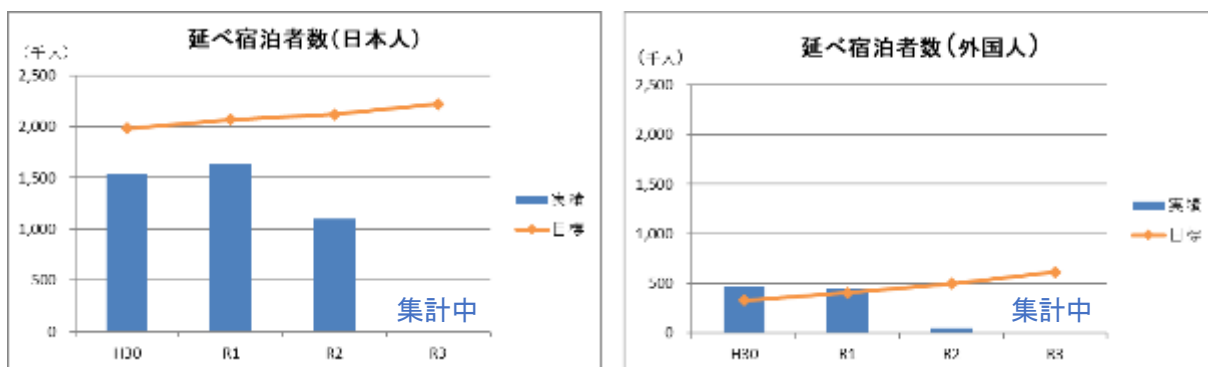
(3) KPI の達成状況

下記に KPI ☆達成状況を示す。新型コロナウイルス感染症☆流行に伴う行動制限などにより、令和2年度以降☆延べ宿泊者数、旅行消費額が大きく減少する結果となった。今後☆観光動向を踏まえ、目標値を見直すとともに、旅行者☆回復に向け取組みを進めていく必要がある。

KPI ☆データについては、当観光圏を対象範囲とした(公財)阿蘇地域振興デザインセンターが実施する調査及び構成市町村で実施する観光統計により取得した。

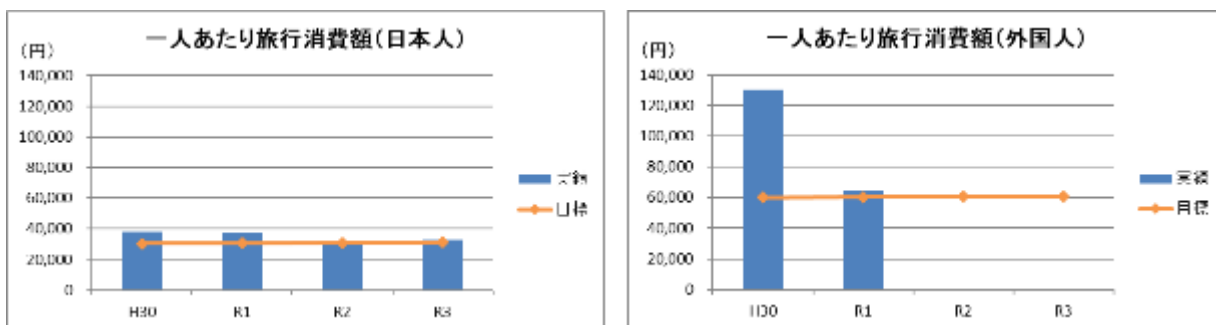
①延べ宿泊者数

令和元年度までは増加傾向であったが、令和2年度以降は国内・国外☆両方において宿泊者は減少している。



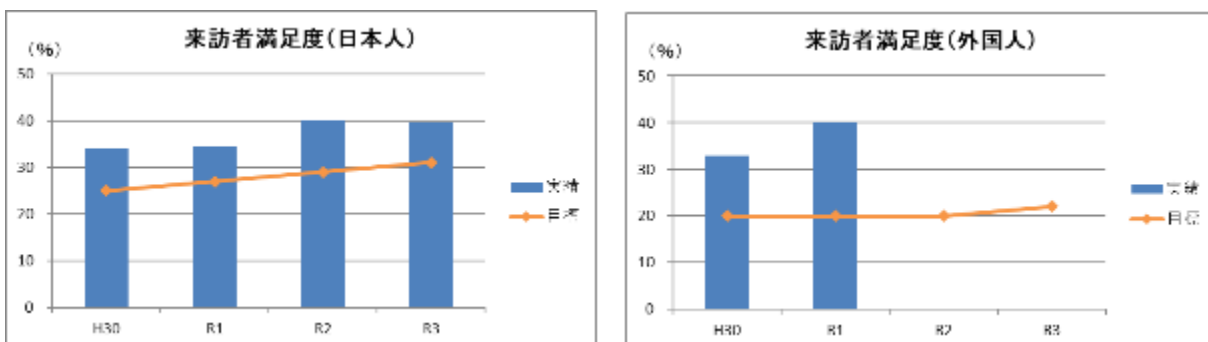
②一人あたりの旅行消費額

令和元年度までは目標を上回る消費額となり、特に外国人☆平成30年度☆消費額は目標を大幅に上回った。令和2年度以降はやや減少傾向となり、外国人☆旅行消費額は宿泊者数とも相まって0になっているが、日本人☆消費額は若干☆減少にとどまっている。



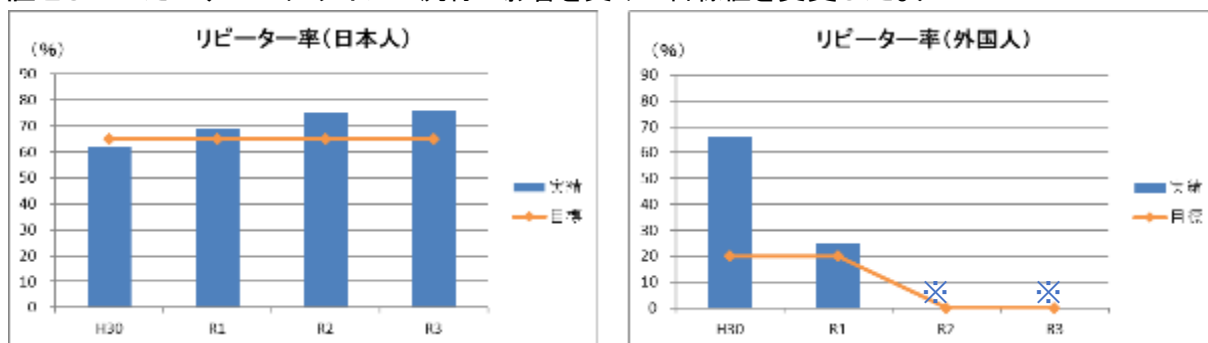
③来訪者満足度

来訪者満足度は、日本人・外国人ともに全体として高い傾向にあり、目標値を上回っている。コロナ渦により外国人☆満足度はデータが計測できていないが、日本人は目標より高い割合を維持している。



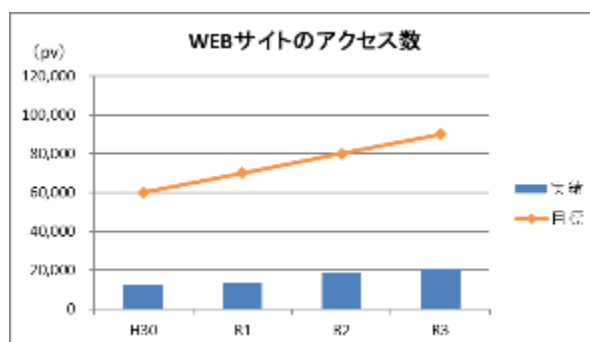
④リピーター率

日本人についてはコロナ禍においても増加傾向にあり、目標値を上回っている。一方で、外国人は平成30年度☆リピーター率が65%を超えており、令和元年度においても25%がリピーターであった。(※外国人リピーター率について、前期計画時点では平成30年を基準に対前年2%増を目標値としていたが、コロナウイルス流行☆影響を受けて目標値を変更した。)



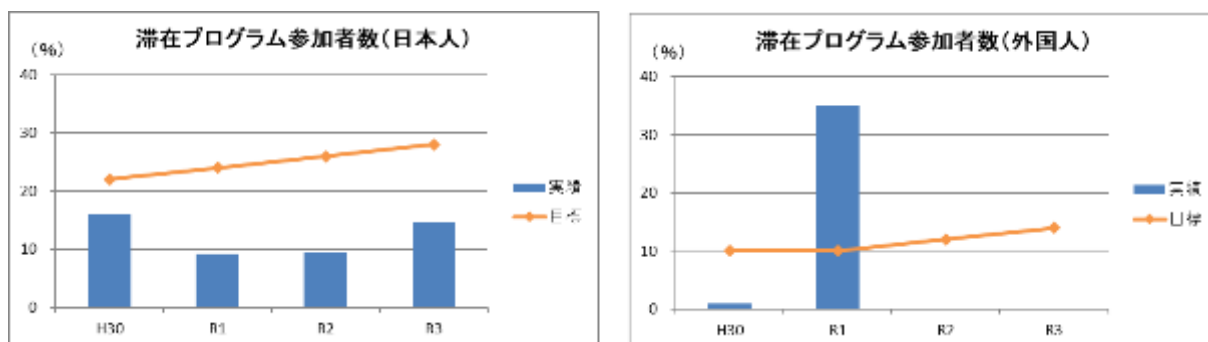
⑤WEB サイトのアクセス数

平成30年度にHP「阿蘇ナビ」をリニューアルし、増加傾向にあるが、目標値には達していない。



⑥滞在プログラム参加者数

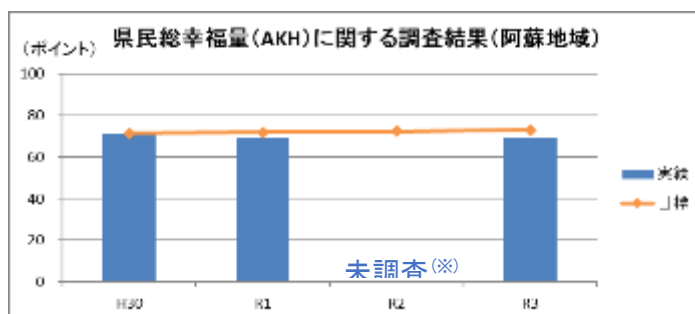
日本人☆参加者数はコロナ禍でやや減少したが、令和3年度以降は回復傾向にある。外国人☆参加者は、令和元年度に飛躍的に増加したが、令和2年度以降は実績値がない。



数値の取得方法：(公財)阿蘇地域振興デザインセンターが実施する調査において、「参加しなかった」等の回答を差し引いた数値により取得する。

⑦県民総幸福量 (AKH) に関する調査結果 (阿蘇地域)

令和3年度には増加傾向にあるが、目標値には達していない。(※令和2年7月豪雨☆ため調査を実施していない)



(4) 来訪者の状況

阿蘇くじゅう観光圏☆来訪者☆状況を来訪者満足度調査☆結果より示す。(引用【2021年度】来訪者満足度調査 阿蘇くじゅう観光圏 報告書)

①性別

全体的に女性☆割合がやや高くなっている。

■性別 (全体/単一回答)

Q1-1. お答えいただいたご本人様の性別、年齢、居住地を教えてください。(○は、1つだけ)

	男	女	無回答
●凡例			
全国観光：2021年度・合計 (n= 8,157)	44.4%	53.8	1.9
【阿蘇くじゅう観光圏】：2018年度 (n= 315)	41.9	54.9	3.2
【阿蘇くじゅう観光圏】：2019年度 (n= 436)	44.3	51.2	4.6
【阿蘇くじゅう観光圏】：2020年度 (n= 129)	55.0	44.2	0.8
【阿蘇くじゅう観光圏】：2021年度 (n= 326)	44.2	53.1	2.8
来訪回数別 初めて (n= 68)	42.7	54.4	2.9
リピーター (n= 248)	45.2	52.0	2.8
滞在時間別 日帰り・計 (n= 49)	42.9	57.1	—
宿泊・計 (n= 268)	44.8	51.9	3.4
来訪時期別 夏季調査：2021年度 (n= 126)	46.0	49.2	4.8
冬季調査：2021年度 (n= 200)	43.0	55.5	1.5
調査地点別 小国郷エリア・計 (n= 126)	47.6	48.4	4.0
阿蘇エリア・計 (n= 83)	42.2	56.6	1.2
南阿蘇エリア・計 (n= 59)	40.7	59.3	—
くじゅうエリア・計 (n= 40)	40.0	52.5	7.5
高千穂エリア・計 (n= 18)	50.0	50.0	—

②年代

全体では40～60代がボリュームゾーンであり、リピーター☆割合も高い。初めて層は20代・30代が高い。調査地点別では、小国郷エリアは20代、くじゅうエリアは60代、高千穂エリアは40代☆割合が高く、各エリアによって年代構成が異なる。

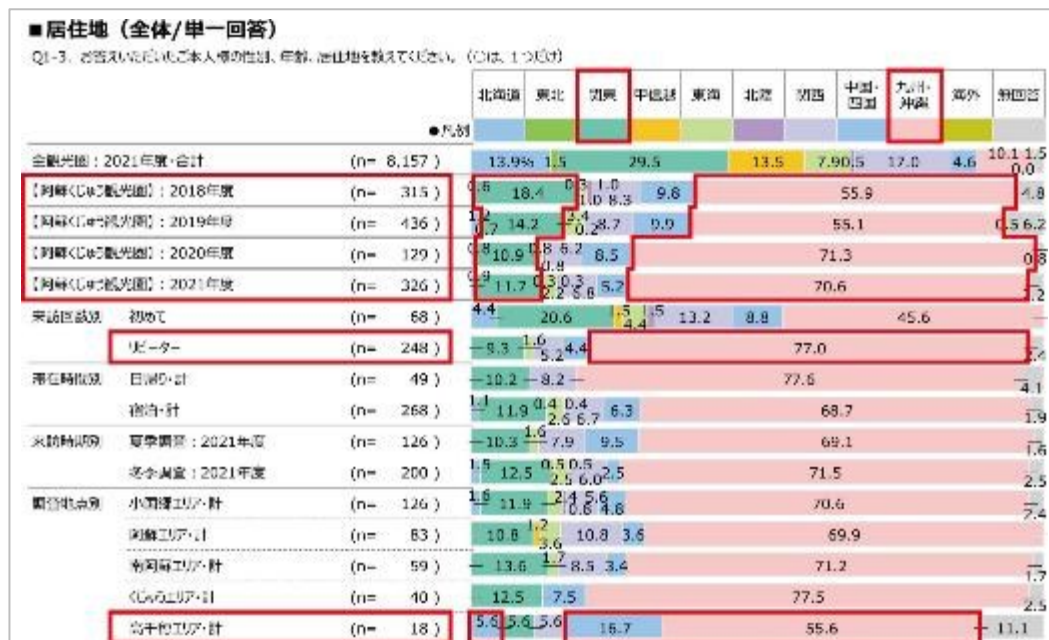
■年代 (全体/単一回答)

Q1-2. お答えいただいたご本人様の性別、年齢、居住地を教えてください。(○は、1つだけ)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
●凡例								
全国観光：2021年度・合計 (n= 8,157)	2.0%	11.7	14.1	19.1	22.1	19.3	10.2	1.5
【阿蘇くじゅう観光圏】：2018年度 (n= 315)	1.0	7.9	16.8	18.4	22.5	19.1	12.4	1.9
【阿蘇くじゅう観光圏】：2019年度 (n= 436)	1.2	10.8	15.4	22.9	20.4	17.2	8.0	4.1
【阿蘇くじゅう観光圏】：2020年度 (n= 129)	—	13.2	10.1	16.6	23.3	24.0	—	10.9
【阿蘇くじゅう観光圏】：2021年度 (n= 326)	0.9	14.4	11.0	17.2	22.4	21.8	9.8	2.5
来訪回数別 初めて (n= 68)	—	30.9	16.2	14.7	19.1	11.8	7.4	—
リピーター (n= 248)	1.2	10.1	9.3	16.6	23.0	24.2	10.5	3.2
滞在時間別 日帰り・計 (n= 49)	—	24.5	16.3	22.5	—	22.5	—	2.0
宿泊・計 (n= 268)	1.1	12.7	10.1	16.8	23.5	21.6	11.6	2.6
来訪時期別 夏季調査：2021年度 (n= 126)	0.8	11.1	10.3	18.3	25.4	25.4	7.9	9.8
冬季調査：2021年度 (n= 200)	1.0	16.5	11.5	16.5	20.5	19.5	11.0	3.5
調査地点別 小国郷エリア・計 (n= 126)	—	4.8	21.4	10.3	15.9	25.4	19.1	5.8
阿蘇エリア・計 (n= 83)	—	14.5	13.3	16.9	24.1	14.5	13.3	3.6
南阿蘇エリア・計 (n= 59)	—	6.8	13.6	20.3	20.3	28.8	10.2	—
くじゅうエリア・計 (n= 40)	—	7.5	5.0	12.5	17.5	40.0	—	15.0
高千穂エリア・計 (n= 18)	—	11.1	5.6	11.1	27.8	11.1	11.1	11.1

③居住地

九州・沖縄☆割合が最も高く、次いで関東☆割合が高い。2020 年度以降は九州・沖縄☆割合が7割と高く、リピーター層では8割近くを占める。調査地点別にみると、くじゅうエリアは九州・沖縄☆割合が最も高く、高千穂エリアは北海道や中国・四国☆割合が、他地点に比べ高い。



<エリア内訳>

東北：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[illegible]

東海國：岐阜、静岡、愛知、三重

中国・四国：鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳山、香川、高松、愛媛、高知、福岡、佐賀、大分、熊本、鹿

関東：埼玉、千葉、東京、神奈川、茨城、栃木、群馬

[illegible]

關西：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

1、愛媛、高知

九州：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

④認知されたサービス品質・価値

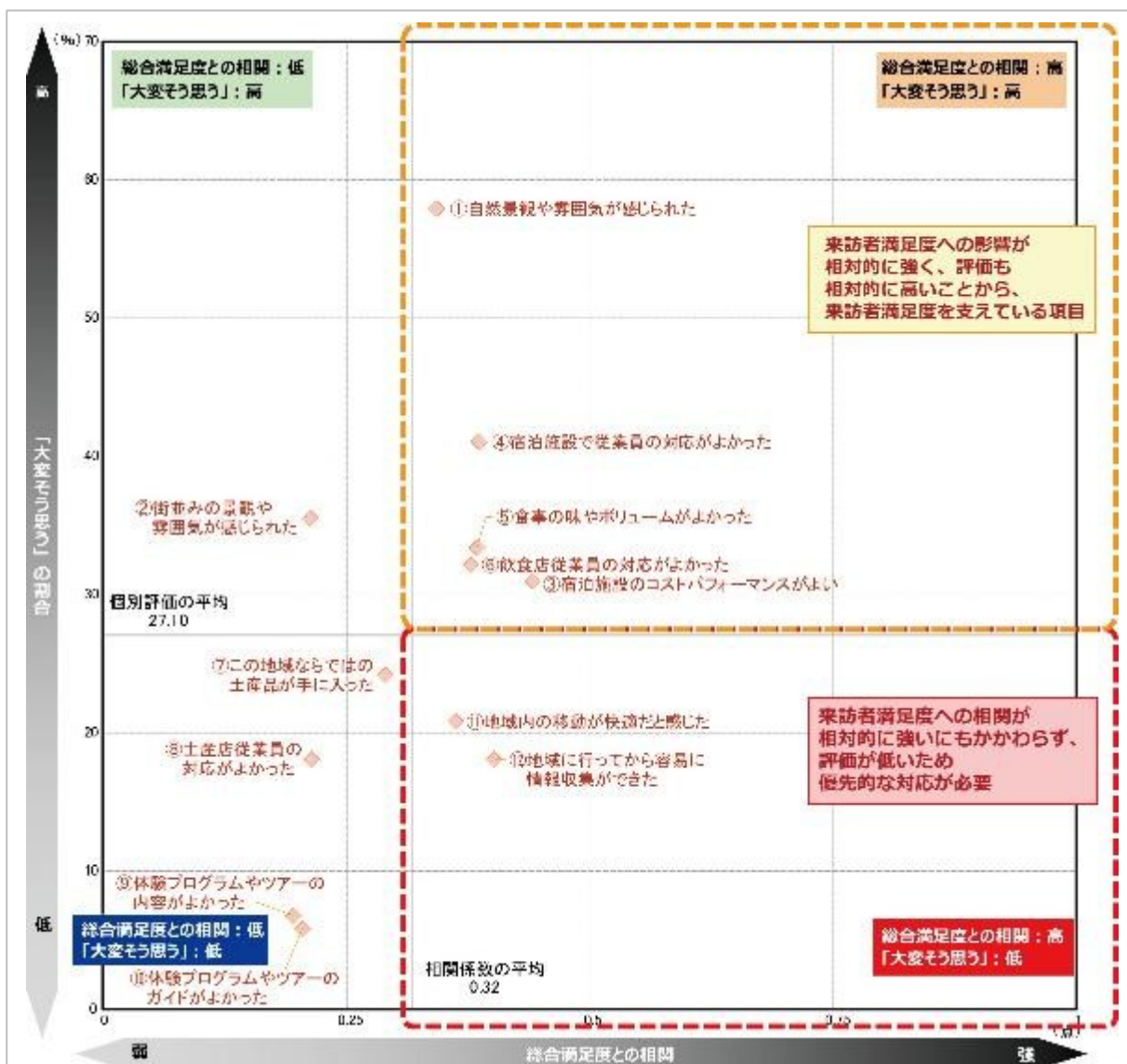
「自然景観や雰囲気を感じられた」「宿泊施設で☆従業員☆対応がよかった」☆割合が高く、全観光圏と比較しても差が大きい。一方で、「体験プログラムやツアー☆内容がよかった」「体験プログラムやツアー☆ガイドがよかった」は全観光圏と比較し割合がやや低くなっている。



⑤来訪者満足度に影響のある要素

来訪者満足度調査☆分析結果によると、阿蘇くじゅう観光圏☆満足度を支えている要素は、「自然景観や雰囲気」「宿泊施設」「食事・飲食店」であった。今後、満足度を高めるために対応が必要な要素は、「移動・情報収集」であった。

		【阿蘇くじゅう観光圏】：2021年度 (n= 326)		
		総合満足度 との相関 係数	個別評価	
			「大変そう思う」 (%) 総数	加重平均値 (点)
本地域での 自然や食事、 体験、宿泊 などの評価 について	景観や雰囲気	①自然景観や雰囲気が感じられた	高 0.34	高 58.0 6.47
		②街並みの景観や雰囲気が感じられた	低 0.21	高 35.6 5.91
	宿泊施設	③宿泊施設のコストパフォーマンスがよい	高 0.44	高 31.0 5.87
		④宿泊施設で従業員の対応がよかった	高 0.39	高 41.1 6.18
		⑤食事の味やボリュームがよかった	高 0.38	高 33.4 6.01
	食事・飲食店	⑥飲食店従業員の対応がよかった	高 0.38	高 32.2 5.96
	物販・土産店	⑦この地域ならではの土産物が手に入った	低 0.29	低 24.2 5.67
		⑧土産店従業員の対応がよかった	低 0.21	低 18.1 5.51
	体験プログラム・ ツアー	⑨体験プログラムやツアーの内容がよかった	低 0.20	低 6.8 5.54
		⑩体験プログラムやツアーのガイドがよかった	低 0.20	低 5.8 5.49
	移動・ 情報収集	⑪地域内の移動が快適だと感じた	高 0.36	低 20.9 5.36
		⑫地域に行ってから容易に情報収集ができた	高 0.40	低 18.1 5.37
平均値		0.32	27.10	5.78



(5) 阿蘇くじゅう観光圏を取り巻く観光の動向

①災害からの創造的復興と記憶の継承

熊本県では平成 28 年に発生した熊本地震☆復旧・復興☆総仕上げ段階に入り、創造的復興を契機とした効果的・魅力的なイベントやプロモーションを実施することとしている。阿蘇エリアでも来訪者が徐々に来訪者は戻り、地震で被災した阿蘇神社楼門☆修復が令和5年12月に完了する予定である。

また令和5年度には、震災遺構である旧東海大学阿蘇キャンパスを震災ミュージアムとして整備予定であり、教育旅行や防災ツーリズム☆拠点となると考えられる。

②観光圏へのアクセス性の向上

令和5年度に九州中央自動車道☆山都中島西 IC～矢部 IC 間が開通予定であり、熊本市内から山都町・高千穂町方面へ☆移動が短縮される見込みである。また阿蘇くまもと空港では、令和5年春に国内線・国際線一体型☆ターミナルビルがオープンする予定となっている。

熊本地震で被災した南阿蘇鉄道が令和5年夏に全線運行再開を予定しており、それに合わせ立野駅を経由して肥後大津駅まで鉄道が乗り入れることが計画されている。立野駅周辺は重要な交通拠点として、阿蘇くじゅう観光圏☆周遊を促進することが期待される。

③インバウンド需要の高まり

「DBJ・JTBF※アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者☆意向調査 2022 年度版」によると、世界的にインバウンド観光が再開しつつある状況下で、外国人旅行者☆次☆観光旅行先として、日本は人気一位となっている。世界的なイベントとして、令和5年 10 月に、UCI(国際自転車競技連合)認定☆プロ自転車ロードレース「ツール・ド・九州 2023」令和7年4月から10月に、日本国際博覧会(略称「大阪・関西万博」)等も開催予定であり、九州☆インバウンド回復☆契機となることが期待される。

また熊本県菊陽町では、台湾☆半導体大手企業 TSMC ☆工場が令和6年度に稼働予定である。阿蘇くまもと空港では、台湾☆台北と☆チャーター便☆誘致方針を示しており、TSMC がもたらす交流人口増加へ☆取組み推進が予想される。 ※DBJ・JTBF…日本政策投資銀行・公益財団法人日本交通公社☆略。

④観光のトレンドの変化

新型コロナウイルス感染症☆流行を契機として、密を避けた自然環境に触れる旅行へ☆意識が世界的に高まっている。日本政府観光局(JNTO)は、今後☆旅行者受入再開☆状況やコロナ禍☆旅行者☆意識変化等を踏まえ、高付加価値旅行、サステナブルツーリズム、アドベンチャートラベル☆3分野に重点的に取り組むこととしている。国内でも地方志向☆高まりやテレワーク普及により、ワーケーションや第2☆ふるさとづくりといった新たな交流市場を開拓する取組みが進んでいる。

⑤日本型 IR 整備の推進

総合型リゾート(IR)とは、民間事業者が一体として設置及び運営する「観光振興に寄与する諸施設」と「カジノ施設」から構成される一群☆施設である。日本では、国内各地☆観光地や観光ルートを紹介し、来訪客を国内各地に送り出すことにより、国内各地☆観光地へ☆訪日外国人旅行者や日本人国内旅行者☆訪問☆増加に貢献する「日本型 IR」☆整備を掲げている。令和4年4月時点で、大阪府と長崎県が誘致を目指しており、今後認定審査が行われることとなっている。長崎県は佐世保市ハウステンボスを候補地として、計画では令和9年度☆開業予定としている。

(6) 上位・関連計画

①上位計画

明日☆日本を支える観光ビジョン - 世界が訪れたくなる日本へ -

(平成28年・明日☆日本を支える観光ビジョン構想会議)

近年☆訪日外国人旅行者☆増加を背景に、観光は我が国にとって「地方創生」☆切り札となりうる。観光によって、地域に雇用を生み出し、人を育て、国際競争力☆ある生産性☆高い観光産業へと変革していくため、観光を我が国☆基幹産業へと成長させ、「観光先進国」を目指すことが必要となる。これを達成するために、3つ☆視点と10☆改革を取りまとめ、観光客数を具体的に目標値として設定した計画を策定している。

【3つ☆視点と10☆改革】

視点1 観光資源☆魅力を極め、地方創生☆礎に

- ・「魅力ある公共施設」を、ひろく国民、そして世界に開放
- ・「文化財」を、「保存優先」から観光客目線で☆「理解促進」、そして「活用」へ
- ・「国立公園」を、世界水準☆「ナショナルパーク」へ
- ・主な観光地で「景観計画」をつくり、美しい街並みへ

視点2 観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国☆基幹産業に

- ・古い規制を見直し、生産性を大切にする観光産業へ
- ・あたらしい市場を開拓し、長期滞在と消費拡大を同時に実現
- ・疲弊した温泉街や地方都市を、未来発想☆経営で再生・活性化

視点3 すべて☆旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に

- ・ソフトインフラを飛躍的に改善し、世界一快適な滞在を実現
- ・「地方創生回廊」を完備し、全国どこへでも快適な旅行を実現
- ・「働きかた」と「休みかた」を改革し、躍動感あふれる社会を実現

観光圏☆整備による観光旅客☆来訪及び滞在☆促進に関する基本方針

(平成30年一部改正・農林水産省・国土交通省告示第1号)

「明日☆日本を支える観光ビジョン」☆目標達成に寄与することを目指し、地域☆観光地を相互に戦略的に連携させた観光圏を整備し、国内外から☆観光旅客を対象とする二泊三日以上☆滞在に対応可能なエリアを国内に形成し、国際競争力☆高い魅力ある観光地とするため☆基本方針を定めている。地域☆幅広い産業☆活性化や、交流人口☆拡大による相互理解☆増進、地域☆活性化が図られ、我が国固有☆自然、文化、歴史等に関する理解を深めるも☆として観光☆意義を一層高めるとともに、豊かな国民生活を実現する「住んでよし、訪れてよし」☆地域づくりを図ることが期待されている。

【観光圏☆整備による観光旅客☆来訪及び滞在☆促進☆目標】

- ・「明日☆日本を支える観光ビジョン」に掲げた目標☆達成へ☆寄与
- ・観光地間☆連携、地域☆幅広い産業間☆連携及び国・地方公共団体と民間主体間☆連携という三つ☆連携を促進することで、観光圏整備事業☆着実な実施と地域☆活性化を図る

②各市町村の観光の方向性

第2次阿蘇市総合計画 後期基本計画

(令和3年・阿蘇市)

観光資源☆磨き上げや観光客☆受入れ態勢☆強化及び誘致活動、併せて新型コロナウイルス感染症予防対策を進め、国や県、関係機関等と☆連携により、国内外から選好される魅力ある滞在交流型☆観光地域づくりを推進し、阿蘇ブランドを活かした新たな観光需要☆喚起と長期滞在客や観光消費額☆増加を図る。

第6次小国町総合計画 前期基本計画

(令和2年・小国町)

地域資源☆整備やネットワーク化した広域観光ルート☆設定による観光資源☆活性化を図るとともに、推進体制☆充実、地域特産品等を活用した商品開発や販売ルート☆確保、イベント☆充実等による観光☆振興を図る。また、地域おこし協力隊☆雇用による積極的な人材活用を行い、地域力☆活性化に努める。令和2年から発生した新型コロナウイルス感染症へ☆対策による経済活動をニューノーマルな生活スタイルとして、小国町☆観光に係るガイドラインをしっかりと確立させる。そ☆ために観光関連☆組織強化を図る。

第4次南小国町総合計画

(令和元年・南小国町)

新規観光客及びリピーター観光客☆数を着実に増やしていくとともに、彼ら☆滞在時間、観光消費を増大させていくために、地域DMOであるSMO及び南小国町観光協会を始めとした関係団体と連携して、地域資源を活用した新たな需要☆取込み強化及びソフト・ハード両面で☆受入環境☆整備推進に取り組む。また地域資源☆発掘やこれまでと違った形や内容で☆情報発信に取り組んでいく。

満足度を高めリピーターを増やすため☆受入環境☆整備として、ソフト面では、おもてなし向上、多言語対応、クレジットカードや電子マネー等キャッシュレス決済☆促進等、ハード面では、トイレ整備、通路・施設☆バリアフリー化等を推進する。

産山村過疎地域持続的発展計画

(令和2年・産山村)

観る観光から、体感する観光へ☆転換を図るため、産山村観光協会を中心に官民一体となった情報発信やイベント等による観光客☆誘致を展開する。村内☆自然や文化を活用した“産山村ならではの”☆体験メニュー☆掘り越しを行うとともに、過密☆回避やキャッシュレス化を図りながらサステイナブルツーリズムを推進する。またマイクロツーリズムに関しても、県内や近隣地域をターゲットに定め、誘客やコンテンツ☆造成を行う。併せて、阿蘇地域における平成25年5月☆世界農業遺産☆認定、平成26年9月☆世界ジオパーク認定を契機とし、観光協会と連携した取組みを展開する。

第2次南阿蘇村総合計画 後期基本計画(改訂版)

(令和3年・南阿蘇村)

- ①熊本地震を教訓とした防災観光☆推進
- ②with コロナ時代に対応した新たな観光スタイル☆確立
- ③ナイトタイムエコノミー☆推進による観光消費☆拡大
- ④観光地域づくり法人(DMO)☆推進
- ⑤地域を担う観光人材☆育成

第2期高森町観光立町推進計画**(令和2年・高森町)**

- 目標1 選ばれる！ 新たな観光地・観光資源☆創出形成
- 目標2 地域団体・観光事業者等と☆連携強化及び組織☆充実
- 目標3 官民連携☆観光人材育成
- 目標4 景観☆保全とリンクする新たな取り組み
- 目標5 国際観光☆振興
- 目標6 観光旅行者・来町者☆利便性向上
- 目標7 観光旅行者・来町者☆安全確保
- 目標8 町民へ☆理解促進と広報宣伝

第5次西原村総合計画 後期基本計画**(平成31年・西原村)**

関係団体と連携し、豊富な観光資源やイベント☆魅力向上を図り、ホームページをはじめとした多様な方法で積極的なPRを推進するとともに、近隣市町村と連携し広域的観光ルート☆開発等に取り組む。2020年度から☆阿蘇くまもと空港☆民営化を契機とした、本村へ☆来訪客増加につながる施策☆検討を行う。

第2次山都町総合計画 後期基本計画**(令和元年・山都町)**

訪れた人が、あり☆まま☆自然や人、文化に触れ、お☆ずと応援者・愛好者となる「山☆都」を目指す。

基本施策1 観光受入体制☆強化

基本施策2 観光メニューづくり☆推進

竹田市総合計画 基本計画**(平成18年(令和5年策定予定)・竹田市)**

1. 広域的な周遊型観光ネットワーク☆確立
2. イベント☆充実や観光資源☆付加価値化☆促進
3. 効果的な観光情報☆発信
4. 地域資源☆有効活用
5. ツーリズムによる都市住民と☆交流促進
6. 地域イメージ☆確立と保養温泉地環境☆整備
7. 稲葉ダム周辺整備による観光振興
8. 観光☆担い手育成

第6次高千穂町総合長期計画**(令和2年・高千穂町)**

- (a) 地域経済☆活性化や地元観光関連事業所☆収益向上☆ため、観光客☆増加につながる観光資源☆有効活用と魅力向上を図る。
- (b) 多様な旅行形態に対応していくため、観光客☆受け入れ体制☆整備を促進する。
- (c) 国内外☆幅広いターゲット☆誘客を図るため、観光情報☆効果的な情報発信を行う。

③関連計画

熊本地震から☆観光☆創造的な復興☆実現に向けて～熊本観光復興会議☆意見集約～

(平成28年、熊本観光復興会議)

熊本地震発生以前☆熊本県☆観光振興策は、阿蘇と熊本城☆ブランド力をさらに強化し、けん引役としてその効果を県内各地に波及することとしていた。しかし、熊本地震により大きな被害を受けたこと、さらに人口減少が進む中で今後☆成長が見込まれる産業☆一つとして観光分野が挙げられることから、今後☆熊本県☆観光戦略に向けて、「熊本観光復興会議」を開催し、委員☆提言をまとめた。

【観光復興☆実現に向けた提言】

1. 基幹産業として県観光☆基盤を整える
2. チャンスを引き寄せて地元消費を拡大するようなインバウンド対応
3. 熊本☆「食」で攻める～食をテーマにした地域資源☆再構築～三ツ星からB級グルメまで
4. 熊本城、阿蘇観光☆再生に向けたストーリーづくり

阿蘇山上観光復興ビジョン

(平成29年、阿蘇市)

関係者へ☆意見聴取や、関連する計画・提言をもとに、今後☆阿蘇山上☆あり方について、より上質な観光地となるため☆課題と、観光客☆滞在時間を延ばすため☆アイデアを検討し、将来像及び取組☆イメージを描いている。

【目標】

「より上質な観光地として☆阿蘇山上へ」

【短・中・長期的な取組☆具体イメージ】

1. 第1期 短期的取組 「世界一安全に配慮された火口観光地を目指す」
 - ・山上事業者☆早期営業再開と、わかりやすく安全な山上環境☆整備
 - ・語り部観光／地震・噴火被災☆商品化
 - ・海外マーケティング戦略☆立案／アジア向け、EU向け等
 - ・キーパーソンや推進母体☆設立
2. 第2期 中期的取組 「阿蘇山上に地域☆力を結集する」
 - ・未活用資源☆活用検討や、体験プログラム☆充実
 - ・地域内連携ビジネスモデル☆具体化
 - ・山上公的施設経営☆一元化☆検討や、山上駐車システム☆検討
3. 長期的取組 「世界へ阿蘇を発信する」
 - ・国内外から☆来訪者☆増加と満足度☆向上
 - ・山上☆環境保全及び施設運営☆ため☆財源確保
 - ・様々なプログラムメニュー☆派生による地域参画☆増加

阿蘇くじゅう国立公園ステップアッププログラム 2025

(令和 3 年、国立公園満喫プロジェクト/阿蘇くじゅう国立公園地域協議会)

2016年にとりまとめられた「明日☆日本を支える観光ビジョン」☆柱☆一つとして、先行的・集中的に取組みを行う8ヶ所☆国立公園で策定した「国立公園ステップアッププログラム2020」☆実施期間を2020年から2025年に延長し、「ウィズコロナ、ポストコロナ☆時代へ☆対応」を新たに盛り込んだ阿蘇くじゅうステップアッププログラム2025をとりまとめている。

【計画☆コンセプトとターゲット】

「草原☆かほり、火山☆呼吸。風と水☆恵みを人が継ぎ人が繋ぐ、感動☆大地」をコンセプトに、特定☆国や旅行形態に偏ったターゲットを設定せず、各ニーズに対応した多彩なプロモーション展開等を検討する。

【計画☆目標】

- ・訪日外国人来訪者…140 万人
- ・公園利用者数…2,300 万人
- ・公園利用☆質☆向上(リピーター数、満足度、公園内☆支出額☆向上)

【プロジェクト☆取組方針と実施事項】

1. ウィズコロナ・ポストコロナ☆時代へ☆対応

- ①安心安全な受入環境づくり ②国内誘客☆強化 ③ワーケーション等☆新たな公園利用☆提供
- ④キャパシティコントロール☆推進

2. 8公園から全国展開・さらなる高みへ

- ①保護と利用☆好循環化 ②上質なサービス☆提供 ③キラーコンテンツづくり ④広域周遊☆促進
- ⑤SDGs ☆推進

3. これまで☆取組☆継続

- ①景観保全☆強化 ②利用環境☆向上 ③熊本地震から☆創造的復興 ④産官学金等☆連携☆強化
- ⑤国立公園へ☆誘導策・プロモーション☆推進

千年☆草原☆継承と創造的活用総合特区地域活性化方針

(令和 5 年更新 (第 3 期)、阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、山都町)

世界的遺産であり、地域にとって誇りである「阿蘇草原」を守り次世代に伝えていくとともに、草原☆新たな活用を進め、草原とつながる観光スタイル☆創造と資金還流☆仕組みづくりによる地域☆活性化、ひいては観光立国☆推進に貢献することを目指す。

【取組☆概要】

①草原(自然環境)☆維持・活用

- ・自然空間☆維持管理作業における支援ボランティア派遣☆拡大
- ・土地利用形状☆整理、恒久防火帯整備☆導入
- ・多様な受益者等から☆資金提供による継続的な維持管理☆仕組みづくり 等

②観光消費や食料生産基盤☆確保

ア)草原由来産品☆販売拡大

イ)草原案内システム構築

ウ)草原利活用連携促進

阿蘇ジオパーク基本計画書

(令和3年、阿蘇ジオパーク推進協議会)

2014 年 9 月に認定された、阿蘇ユネスコ世界ジオパーク☆あり方を示すビジョンや基本的な取り組み☆方向性を明確化するとともに、地域に貢献できる阿蘇ユネスコ世界ジオパーク活動☆活性化を図ることを目的に策定された。

【阿蘇ジオパーク☆あるべき姿 (ASO ビジョン)】

「大地☆成り立ちと人々☆関わりに感動をもって、阿蘇☆誇りを未来につなぐ」

【ASO ビジョンを実現するため☆活動方針】

1. 学術研究による地質資源等☆科学的知見☆収集・蓄積
2. 地質資源等を活用した住民が地域を誇りに思う教育普及
3. 地質資源等☆魅力を活かした観光等による経済活性化
4. 地質資源等を未来に引き継ぐ保全活動
5. 国内外と☆ネットワークを活かした活動☆活性化

阿蘇ジオパーク☆拠点施設を中核とした文化観光☆推進に係る地域計画

(令和2年、阿蘇ジオパーク推進協議会)

阿蘇火山博物館を文化観光推進法に基づく文化観光拠点施設と設定し、持続可能な運営体制☆確立と拠点施設である阿蘇火山博物館☆機能を強化し、阿蘇地域☆文化及び観光☆振興並びに個性豊かで活力に満ちた地域社会☆実現を図ることとしている。計画では、以下☆基本的な方向性に沿って目標数値や事業を定めている。

【文化観光拠点施設を中核とした文化観光☆総合的かつ一体的な推進☆ため取組を強化すべき事項及び基本的な方向性】

- 1) 文化観光拠点施設における多言語化☆推進と最新情報技術を駆使した展示改修による魅力☆増進を図る
- 2) ストレスなく文化観光拠点施設等を体験できるため☆キャッシュレス化やバリアフリー化など☆整備、交通アクセス☆整備を施し、誰もが楽しめる環境づくりを推進する
- 3) ガイド窓口☆一元化による来訪者へ☆利便性向上及び多言語による文化観光ガイド☆育成・確保を図る
- 4) 10 年以上継続して取り組んできたジオパーク活動に文化観光☆視点を取り入れた一体的な推進を図る

阿蘇エコツーリズム推進全体構想

(令和元年、阿蘇ジオパーク推進協議会)

阿蘇地域☆自然環境を保全・活用し、地域固有☆魅力を伝えることで、地震から☆復興と活力ある持続的な地域づくりを実現することを目的に策定された『カルデラと阿蘇五岳を中心とする地域ならではの☆自然』に関連する自然資源や、関連して利用される周辺地域☆観光名所、史跡等が挙げられており、エコツーリズム実施にあたって☆ルールや配慮事項が示されている。

【推進☆基本的な方針】

- ① 阿蘇ならではの☆「人」と「自然」がまじわる体験
- ② 悠久☆自然と歴史を継承する
- ③ 8市町村が連携・協働する場づくり

**阿蘇地域通訳案内士育成等計画（令和元年、阿蘇8市町村）、
竹田市地域通訳案内士育成等計画（令和元年、竹田市）**

平成30年1月4日に施行された改正通訳案内士法により、各地域☆観光資源☆魅力を伝えるガイド人材を育成し、訪日外国人旅行者☆地方誘客や滞在満足度向上に努めるため、地域通訳案内士制度が導入され、阿蘇地域8市町村、竹田市を含む全国5地域で育成等計画が策定されている。

地域通訳案内士とは、特定☆地域内において、「報酬を得て、通訳案内（外国人に付き添い、外国語を用いて、旅行に関する案内をすることをいう。）を業とする。」者を言い、地域☆固有☆歴史・地理・文化等☆現地情報に精通した者であり、各自治体が行う研修受講を通じて「地域通訳案内士」として登録を受けた方々が活躍する。阿蘇8市町村、竹田市では英語を対応言語としている。

阿蘇☆草原☆維持と持続的農業【GIAHS イニシアティブアクションプラン】

（平成30年、阿蘇地域世界農業遺産推進協議会）

国連食糧農業機関（FAO）が行う世界農業遺産（GIAHS）☆対象として申請した「阿蘇☆草原☆維持と持続的農業」を保全し推進していくため、長年☆農林業☆営みにより維持されてきた草原や農耕文化、景観、生物多様性をど☆ようにして将来世代へ継承していく☆か、課題と現状を整理し、具体的な取組み内容を記している。

【関連する主な取組み】

(4)市民参加☆拡大による阿蘇草原へ☆理解醸成

- 8)地域資源を生かした農林業と商工業、観光業と☆連携による付加価値向上
・グリーンツーリズムを通じた都市と☆交流拡大

祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク管理運営計画書 2017-2026

（平成29年、祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進協議会）

平成29年6月にユネスコエコパークに登録された「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」☆管理運営における最上位☆計画として、祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク☆活動理念や基本方針、取組み☆方向性を示し、各実施主体によって行われる具体的な取組み☆指針として策定されている。

【活動理念】

尖峰と溪谷が育む森と水、い☆ち☆営みを次世代へ～自然へ☆畏敬をこめて～

【ユネスコエコパークに求められる3つ☆機能】

- 1 保存機能 — 景観、生態系、種及び遺伝的多様性☆保全に寄与する
- 2 学術的研究支援 — 地域レベル、国レベル、世界レベルで☆保全や持続可能な発展に関する広報活動、環境教育・研修、調査研究、モニタリング活動を支援する
- 3 経済と社会☆発展 — 社会文化的にも生態学的にも持続可能な、経済及び人間☆暮らしにおける発展を助長している

【基本方針】

1. 貴重な生態系☆持続的な保全を図る
2. 学術的研究や調査・研修へ☆支援を図る
3. 自然と共生した持続可能な発展を図る

南阿蘇鉄道沿線地域公共交通計画

(令和 4 年、高森町・南阿蘇村・熊本県)

熊本地震で失ったこ☆地域☆“宝”「南阿蘇鉄道」を一日も早く全線復旧し、また未来に残し続けることが必要であり、南阿蘇鉄道を軸とした持続可能な公共交通網☆構築を目指している。

【関連する基本方針と取組】

基本方針5. 観光振興と一体となった公共交通網☆構築

- ・交通結節拠点から各観光施設へ☆二次交通アクセス☆向上
- ・阿蘇くじゅう観光圏や熊本都市圏等と☆広域観光ルート☆整備
- ・南阿蘇鉄道を観光資源として最大限活用した新たな誘客策
- ・外国人観光客☆受入環境整備

阿蘇立野ダム仮設備ヤード整備計画

(令和 2 年、南阿蘇村)

阿蘇☆玄関口として、観光客や移住者☆集客向上に寄与し地域内外で☆交流促進を図る。

【基本方針】

- ・大規模災害発生時☆迅速な救援・救護を可能にし、長期にわたる避難場所として☆機能も兼ね備える防災公園整備を行う。
- ・立野ダムや自然環境等周辺☆地域資源を活かした体験型レジャーを提供するとともに、滞在型観光を促進する宿泊機能を兼ね備える施設整備を行う。
- ・地域住民を中心とする団体等が各種☆活動に利用することができ、またこれら☆活動を通し交流人口☆拡大を積極的に図ること☆できる施設整備を行う。

公益財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター中期計画 令和 4～8 年度

(令和 4 年、公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンター)

令和 4 年から 8 年☆5 年間は、人や地域と☆関係づくりに重点を置き、「人や地域がつながり、世界とつながり、次世代へとつながる阿蘇」を目指し、新たなコンセプトとして「阿蘇リレーション～つながる阿蘇～」を掲げている。具体的な取組みを進める上で☆キーワードとして「人材育成」「関係人口」「伴走支援」を柱として、活動を行うため☆計画として策定している。

【取組内容】

1. 地域資源を磨きあげる
 - ① 草原再生保全支援事業(阿蘇☆草原保全に向けた機運醸成)
 - ② 野焼き支援事業(草原☆維持・再生☆ため☆取組み支援)
 - ③ 阿蘇資源☆発掘とブランドマネジメント
 - ④ 世界ブランド事業☆推進
2. 人を育て活動を支える
 - ① 住民主体による地域づくり活動☆支援
 - ② 地域づくりを担う人材☆育成
 - ③ 阿蘇ファン拡大に向けた取組み
 - ④ 情報☆一元化と戦略的な情報発信
3. 人や資源をつなげ新たな価値を生み出す
 - ① 付加価値☆高い新たな阿蘇資産☆創出
 - ② 何度も訪れたくなる観光地域づくり☆推進
 - ③ 市町村連携による観光地域づくり☆推進
4. DC 本来☆役割を発揮する
 - ① コーディネート機能と牽引力☆強化
 - ② 選択と集中によるメリハリ☆ある事業展開
 - ③ 運営体制☆強化

(7) 課題把握

①観光圏の効果的な情報発信

阿蘇郡市内で連携したイベントやコンテンツ等は多くみられるが、山都町・竹田市・高千穂町と☆連携は十分でない。また3県にまたがる10市町村☆特徴を捉え、一体的にPRしていくため☆ブランドイメージ☆確立が必要である。

今後は、ポストコロナ☆観光需要や大阪・関西万博等☆契機を捉え、国内外☆旅行市場において訴求力を高め、誘客・滞在につなげる情報発信を行っていく必要がある。併せて、各地域や施設が戦略的にターゲットを据え、PRに活用できるような情報収集・分析や、潜在需要☆発掘も求められる。

②周遊促進のための受入環境の整備

JRや南阿蘇鉄道、阿蘇くまもと空港など☆交通結節点から、観光圏を周遊する二次交通手段☆確保が前期計画より引き続き課題として挙げられる。また、バス情報☆わかりにくさや、市町村をまたいだ観光案内☆不足など、現地で☆情報提供には改善が求められている。

今後は、来訪者が初めてでも安心して周遊できるような、情報提供や交通手段☆確保、観光面で☆MaaS☆活用など、受入環境☆整備が必要である。また、特定施設や時期へ来訪が集中するオーバーツーリズムへ☆対応も必要である。

③滞在・観光消費の拡大

阿蘇山上や草原、くじゅう連山など、来訪者が多い資源がある一方で、それらが観光消費や滞在時間☆拡大につなげられていない。夜間営業する飲食施設やコンテンツが近郊☆熊本市や別府と比べて少ないことも要因☆一つであり、ナイトタイム活動を拡大させる取組みが必要とされている。

また、当観光圏では人材不足が課題であり、まずは宿泊施設や観光施設☆受入れ人数増加よりも、来訪者一人あたり☆観光単価を上げていく工夫や、富裕層へ☆対応☆視点から、観光コンテンツ☆高付加価値化や上質化☆取組みが課題とされている。

④災害やコロナからのレジリエンス（回復力）向上

当観光圏☆地域は、古来より噴火や豪雨、地震による被害を受けながらも、自然と共存してきた長い歴史を持つ地域である。しかし、災害☆度に当観光圏へ☆客足が激減し、観光産業や地域に影響をもたらしている。特に山上観光は、中岳☆噴火から来訪者がいまだ回復していない現状がある。

今後は、熊本地震や中岳噴火など☆災害や、新型コロナウイルス流行☆経験を踏まえ、観光と暮らし☆両立☆ため☆持続可能なツーリズムを推進していく必要がある。

⑤観光を支える人材・体制の充実

営業する部屋数を限定している旅館や、体験プログラム☆受入れ農家☆不足、タクシー運転手☆高齢化及び担い手不足といった、多方面で☆人材不足が深刻な現状がある。また、宿泊施設☆予約システムや経理☆クラウドサービスなど、デジタル技術を活用できる人材が少ない現状もある。一方で、地域では高齢化が進み、高齢者☆生きがいづくりや雇用☆場☆創出も求められている。

今後は、宿泊施設☆従業員など☆労働力と、観光地域づくり☆企画・調整などを担う中核となる人材☆2種類☆対応が必要とされている。また、人材・体制☆充実を進める事業☆効果的な実施に向け、DX☆推進や、DMO☆役割☆明確化と市町村と☆連携強化が求められる。

3. 基本的事項

(1) 観光圏の区域

①区域の地理的範囲、観光圏を構成する都道府県及び市町村名

阿蘇くじゅう観光圏☆範囲、観光圏を構成する都道府県及び市町村名は以下☆とおりである。



市町村名	面積 (km ²)	人口 (人)
熊本県阿蘇市	376.30	24,841
熊本県阿蘇郡南小国町	115.90	3,843
〃 小国町	136.94	6,672
〃 産山村	60.81	1,417
〃 高森町	175.06	6,054
〃 南阿蘇村	137.32	10,159
〃 西原村	77.22	6,879
熊本県上益城郡山都町(蘇陽地区)	118.92	3,213
大分県竹田市	477.53	20,005
宮崎県西臼杵郡高千穂町	237.54	11,371
合計 3県 10 市町村	1913.54	94,454

面積、人口は令和4年 10 月末時点



②設定理由

当該地域では、熊本県阿蘇地域8市町村と大分県竹田市、宮崎県高千穂町による「阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議」を設置し、顧客視点に立って、観光エリアマーケティングに基づく旅行商品☆開発、広報・PR、人材育成を始め、地域づくり等と連携した取り組みを実施してきた。

こ☆エリアは、自然、歴史、文化、人☆流れや物流及び観光資源☆面から一体性を持ち、共通☆コンセプトを有することから、平成 20 年度から一体となって「阿蘇くじゅう観光圏」事業に取り組んでいる。本計画においても、同様☆区域設定を継続するも☆とする。

③エリア毎の観光の概要

阿蘇くじゅう高千穂地域は、その地形的特徴やアクセス条件等から、大きく以下☆5つ☆エリアに区分される。ここでは広域周遊をめざすため、各エリア☆観光☆概要を整理する。



阿蘇くじゅう観光圏の範囲と5つのエリア
(阿蘇くじゅう高千穂ツーリスト MAP を引用し作成)

1) 阿蘇エリア

雄大な北外輪山と世界最大級☆カルデラ☆中心である阿蘇五岳をシンボルとするエリア。中岳火口をはじめとする火口丘群は、阿蘇観光☆目玉である。また、地域☆信仰☆中心となっている阿蘇神社など、古くから阿蘇地域☆中心的役割を担ってきた。

エリア内には、阿蘇内牧温泉や、鉄道とバス等☆交通結節点である JR 阿蘇駅があり、阿蘇観光☆中心的役割を担っている。

【主な観光資源】

阿蘇神社とそ☆参道にあたる門前町商店街では水基(みずき)と呼ばれる水汲み場☆散策ができる。阿蘇内牧温泉は、明治から文人墨客が数多く訪れた歴史と文学☆温泉郷であり、旅館、ホテルが立ち並ぶ街中には、町湯や飲食店が点在する。

雄大な阿蘇五岳や外輪山と一面に広がる水田☆絶景を楽しむパラグライダーや熱気球、自転車など☆アウトドア体験ができる。春☆ミヤマキリシマ、夏☆青い草原、秋☆ススキなど☆四季☆彩りや、現在も噴煙を上げる中岳火口は阿蘇ならではの☆見所であり活きる火山を体感することができる。阿蘇火山博物館・阿蘇山上ビジターセンターは学習☆拠点としても利用されている。

宿場町として栄えた坂梨宿には、神社や寺、御茶屋など歴史的文化遺産も多く、歩いて巡ることができる。



水基のある門前町商店街



名水の里である
手野地区の風景



西湯浦の展望所から見た
一面に広がる水田



絶景を楽しむ体験



仙酔峡のミヤマキリシマ



夏から秋の時期の草原



阿蘇中岳の火口



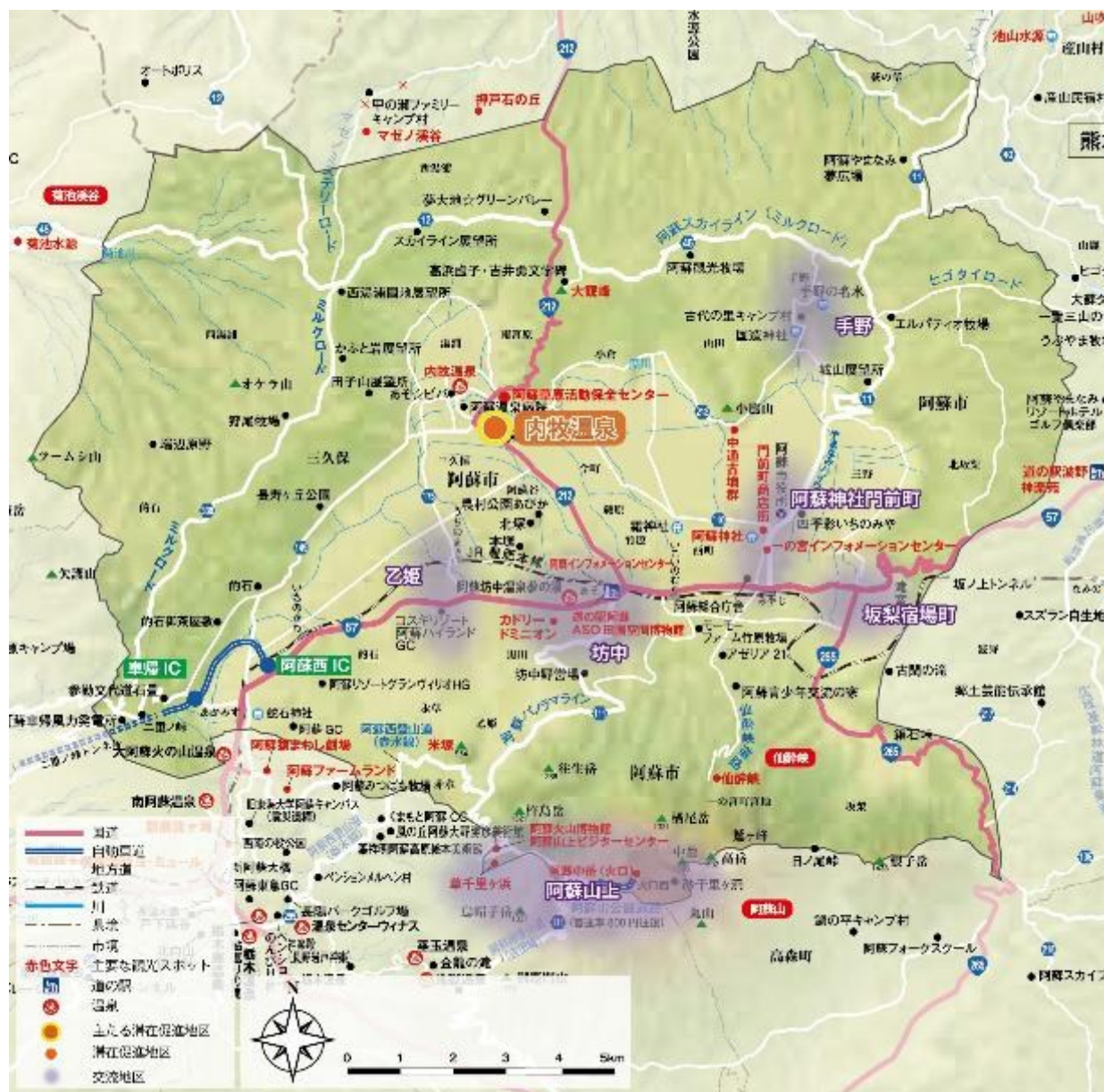
宿場町として栄えた坂梨地区

【交通の状況】

国道 57 号、212 号が中心部を通り、熊本駅と大分駅間をつなぐ JR 豊肥本線が東西に通過している。JR 阿蘇駅は内牧温泉や阿蘇山上をバスでつなぐ阿蘇くじゅう観光圏☆玄関口である。

熊本市や阿蘇くまもと空港から大分市をつなぐ特急やまびこ号、熊本市から黒川温泉・湯布院・別府をつなぐ「九州横断バス」が運行しているほか、地域☆路線バスも運行し、阿蘇市内☆観光地を訪れることができる。

【阿蘇エリアの観光資源図】



(阿蘇くじゅう高千穂ツーリスト MAP を引用し作成)

【主要な観光スポット 内訳】

□拠点施設 道☆駅阿蘇 ASO 田園空間博物館 阿蘇火山博物館 一☆宮インフォメーションセンター	阿蘇草原活動保全センター 阿蘇山上ビジターセンター 阿蘇インフォメーションセンター
□主要な観光地 カドリードミニオン 阿蘇神社 仙酔峡 大観峰 阿蘇中岳(火口)	内牧温泉 門前町商店街 中通古墳群 草千里ヶ浜 米塚

2) 南阿蘇エリア

西原村、南阿蘇村、高森町☆一部、山都町蘇陽地区を含み、白川を中心に、山裾に美しい田園風景が広がる。清らかな湧水と山里ならではの☆景色、農村☆暮らしを散策できる。南阿蘇村立野地区周辺は熊本地震☆記憶を伝える整備が進み、高森町ではマンガを活かしたまちづくりが進められている。

【主な観光資源】

阿蘇くまもと空港からほど近い西原村☆俵山周辺では、春☆野焼き☆風景に毎年多く☆見物客が集まる。また、俵山交流館「萌☆里」を拠点に、県道28号沿いを境に飲食店が点在し、湧水散策や農家民宿などができるほか、牧場で☆体験などが楽しまれている。

南阿蘇村は白川水源や南阿蘇村湧水群が集まる県内随一☆名水地帯であり、水源巡りが人気である。趣ある温泉地も存在する。道☆駅「あそ望☆郷きぎ☆」を拠点として、レンタサイクルで☆周遊や、阿蘇五岳へ☆登山、南外輪山などを歩くトレッキングコースがあり、四季を通じて様々なアウトドア体験ができる。熊本地震で☆震災遺構として旧東海大学阿蘇キャンパスを公開しており、教育旅行で☆来訪も増えつつある。令和5年度には同キャンパス敷地内に体験・体感型☆展示・学習施設が開館予定である。

高森駅周辺には、奥阿蘇☆風土が育む美味・美酒がそろう。そ☆ほか、上色見熊野座神社をはじめとして、マンガやエンターテイメントを活かした観光が推進されている。

九州☆グランドキャニオンと呼ばれる蘇陽峡では、200m☆高さに切り立つ絶壁が約10kmにも続く観光スポットであり、火山と水が作る渓谷美を楽しめる。神秘的な雰囲気☆漂う幣立神宮は、自然に囲まれた高天原神話発祥☆地と言われている。



俵山の野焼きの風景



西原村の白糸の滝



地獄温泉



旧東海大学阿蘇キャンパス



商業で栄えた高森商店街



上色見熊野座神社



蘇陽挾



歴史ある幣立神宮

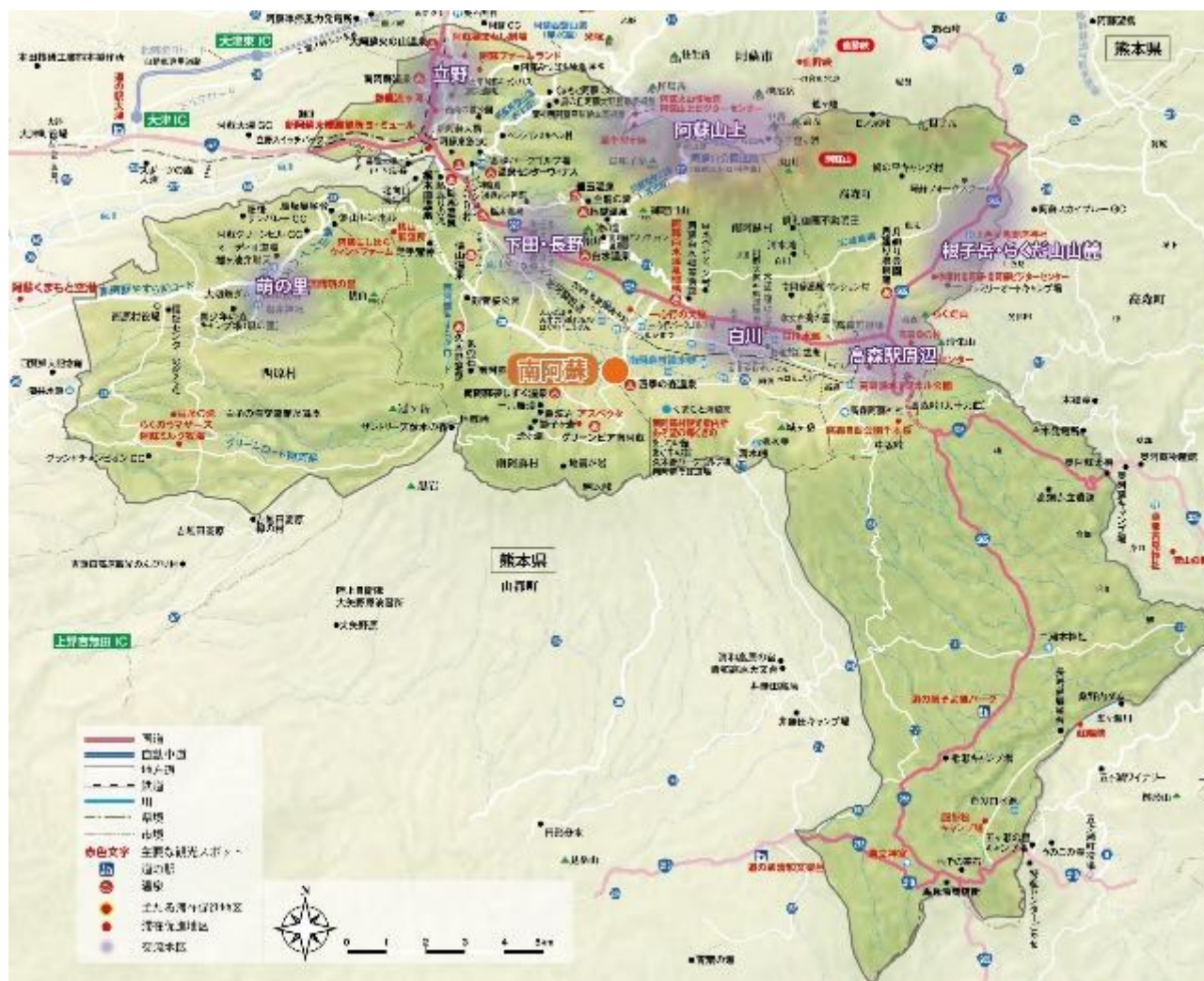
【交通の状況】

熊本地震で不通となっていた南阿蘇鉄道が令和5年に全線開通予定であり、それに合わせて JR 豊肥本線と接続し、肥後大津駅から立野～高森駅間☆移動が円滑になる。

バスによる広域から☆アクセスは、熊本市内や阿蘇くまもと空港から西原村☆萌☆里・俵山登山口、立野駅、高森町観光交流センター前☆高森中央バス停をつなぐ快速バスたかもり号が運行している。また、熊本と高千穂・延岡を結ぶ特急たかちほ号により、南阿蘇村久木野や高森中央バス停、蘇陽地区にアクセスできる。福岡方面からは、福岡延岡間を運行する高速バスごかせ号により、山都町蘇陽地区にアクセスできる。

エリア内では、南阿蘇村と高森町を結ぶ南郷ライナーや、南阿蘇村内を巡る南阿蘇ゆるっとバス、高森町を巡る高森町民バスが利用できる。西原村内は、大津町と益城町をつなぐ路線バスが運行している。山都町蘇陽地区では、熊本市内から御船町経由☆熊本バスが運行するほか、山都ふれあいバスを利用できる。

【南阿蘇エリアの観光資源図】



(阿蘇くじゅう高千穂ツーリスト MAP を引用し作成)

【主要な観光スポット 内訳】

□拠点施設 俵山交流館萌☆里 南阿蘇ビジターセンター	南阿蘇村観光案内所あそ望☆郷ぐぎ☆ 高森町観光交流センター	道☆駅そよ風パーク
□主要な観光地 俵山展望所 阿蘇ファームランド 新阿蘇大橋展望所ヨ・ミュール 白水温泉 一心行☆大桜 らくだ山 南阿蘇鉄道 幣立神宮	阿蘇ミルク牧場 阿蘇猿まわし劇場 旧東海大学阿蘇キャンパス 白川水源 上色見熊野座神社 高森殿☆杉 高森自然公園千本桜 蘇陽峡	白糸☆滝 数鹿流ヶ滝 地獄温泉・垂玉温泉 熊本県野外劇場アスペクタ 休暇村南阿蘇 高森湧水トンネル公園 服掛松キャンプ場

3) 小国郷エリア

小国町、南小国町を含み、全国的に人気☆黒川温泉や鯉☆ぼりで有名な杖立温泉、小田温泉、わいた温泉郷など名湯が点在するエリア。パワースポット・押戸石や清流☆森、マゼノ溪谷といった手つかず☆溪谷や原生林が残っている。日本有数☆杉☆産地で、多く☆温泉が自噴するなど、神秘的な自然美に囲まれた、湯けむり☆秘境である。

【主な観光資源】

小国町にある遊水峡や、滝☆裏側に回ることができる鍋ヶ滝など豊かな水系、南小国☆瀬☆本高原など、多様な自然環境が織りなす風景を目指して多く☆旅行者やキャンプ客が訪れている。

1800 年も☆昔から名高い温泉地・杖立温泉では、昭和レトロな路地裏を巡る、「背戸屋(せどや)めぐり」が魅力である。小国町☆宮原地区では、廃線となった旧国鉄宮原線を巡る歴史散策ができ、湧蓋山☆美しい姿や、竹筋橋といわれる幸野川橋梁を眺めながら☆トレッキングは爽快であり、温泉や食事処、宿などが点在している☆も魅力である。周辺には道☆駅や学習と交流をテーマに活動を行う木魂館など☆施設もある。

押戸石☆丘は、九州でも有数☆パワースポットとして人気がある。黒川温泉は、各旅館☆風情あふれる露天風呂が魅力であり、タオルを片手に露天風呂めぐりをする人で連日にぎわいを見せている。満願寺では、集落を流れる志津川からやわらかな湯煙が立ち上り、川端☆東屋では人々が野菜や農具を洗う、幻想的で懐かしい温泉風景が見られる。



季節の変化を感じる
遊水峡



繊細な水の流れをつくる
鍋ヶ滝



瀬の本高原の商業施設



深い谷間に立ち並ぶ
杖立温泉



歩道化された線路跡や
橋梁



木魂館のキャンプ場と
湧蓋山の風景



押戸石の丘からの眺め



黒川温泉の街並み

【交通の状況】

熊本市内及び大分方面、阿蘇くまもと空港からは、熊本～大分間を運行する九州横断バスによりアクセスできるほか、JR 肥後大津駅と南小国町役場・ゆうステーションをつなぐ快速小国郷ライナーがある。また、福岡市内及び福岡空港方面からも、高速バスでアクセスが可能である。

エリア内では、小国町から南小国町にかけて、黒川温泉、小田温泉、道☆駅小国ゆうステーションを循環する小国郷ぐる～っとバスが運行している。そ☆他、ゆうステーションから杖立や岳☆湯など各方面を結ぶ路線バスもある。

【小国郷エリアの観光資源図】



(阿蘇くじゅう高千穂ツーリスト MAP を引用し作成)

【主要な観光スポット 内訳】

□拠点施設

道☆駅小国ゆうステーション
瀬☆本レストハウス

物産館きよらかアサ

□主要な観光地

杖立温泉
鍋ヶ滝
わいた温泉郷
北里柴三郎記念館
満願寺温泉
マゼノ溪谷
瀬☆本高原

遊水峡
下城☆大イチョウ
木魂館
小国ドーム
黒川温泉
押戸石☆丘

4) くじゅうエリア

竹田市、産山村、阿蘇市波野地区を含み、久住山を代表とする久住高原一帯☆大草原と岡藩が築いた城下町☆風情が象徴的なエリア。温泉療養地としても知られる長湯温泉☆ほか、瀧廉太郎作曲☆「荒城☆月」☆モデルとなった岡城跡は桜や紅葉☆名所として見逃せないスポットである。また、池山水源や山吹水源など☆水源池に代表されるような、美しく神秘的な水辺☆風景が存在する。

【主な観光資源】

くじゅう連山は四季折々☆鮮やかな景色が美しく、多く☆登山愛好家が訪れているほか、くじゅう高原には四季☆花が楽しめる公園や、動物と☆ふれあいや食を楽しむことができる施設、和太鼓エンターテイメント集団☆野外劇場などがあり、雄大な自然資源を活かした観光が盛んである。

長湯温泉は、古くは殿様☆湯治湯として、また、昭和初期には川端康成をはじめ多く☆文人墨客が訪れた。豊後風土記にもそ☆名を残す名湯で炭酸☆湯を楽しめ、日本を代表する建築家らによる建築でも有名となっている。城下町である竹田は、岡藩時代は地方☆政治・経済・文化☆要衝として栄えたことから、キリシタン文化や江戸☆歴史、竹田市ゆかり☆人物を学ぶことができる。

産山村には、池山水源や山吹水源など☆美しく神秘的な水辺や、ヒゴタイなど山野に見られる多様な生態系が存在している。阿蘇五岳とくじゅう連山を一望でき、草原に放牧される牛たち☆様子を眺めるなど、雄大な自然資源を活かした観光が盛んである。

阿蘇市波野地区☆「荻岳」には古くから様々な神話が残し、そ☆信仰心は国☆無形民俗文化財指定☆中江岩戸神楽を始めとする神楽という姿で今も地域に根付いている。日本最南限☆すずらん自生地や、そば☆産地としても有名である。



竹田市沢水展望台からの景色



ガンジー牧場



長湯温泉



岡城跡



岡城城下町



池山水源



ヒゴタイ

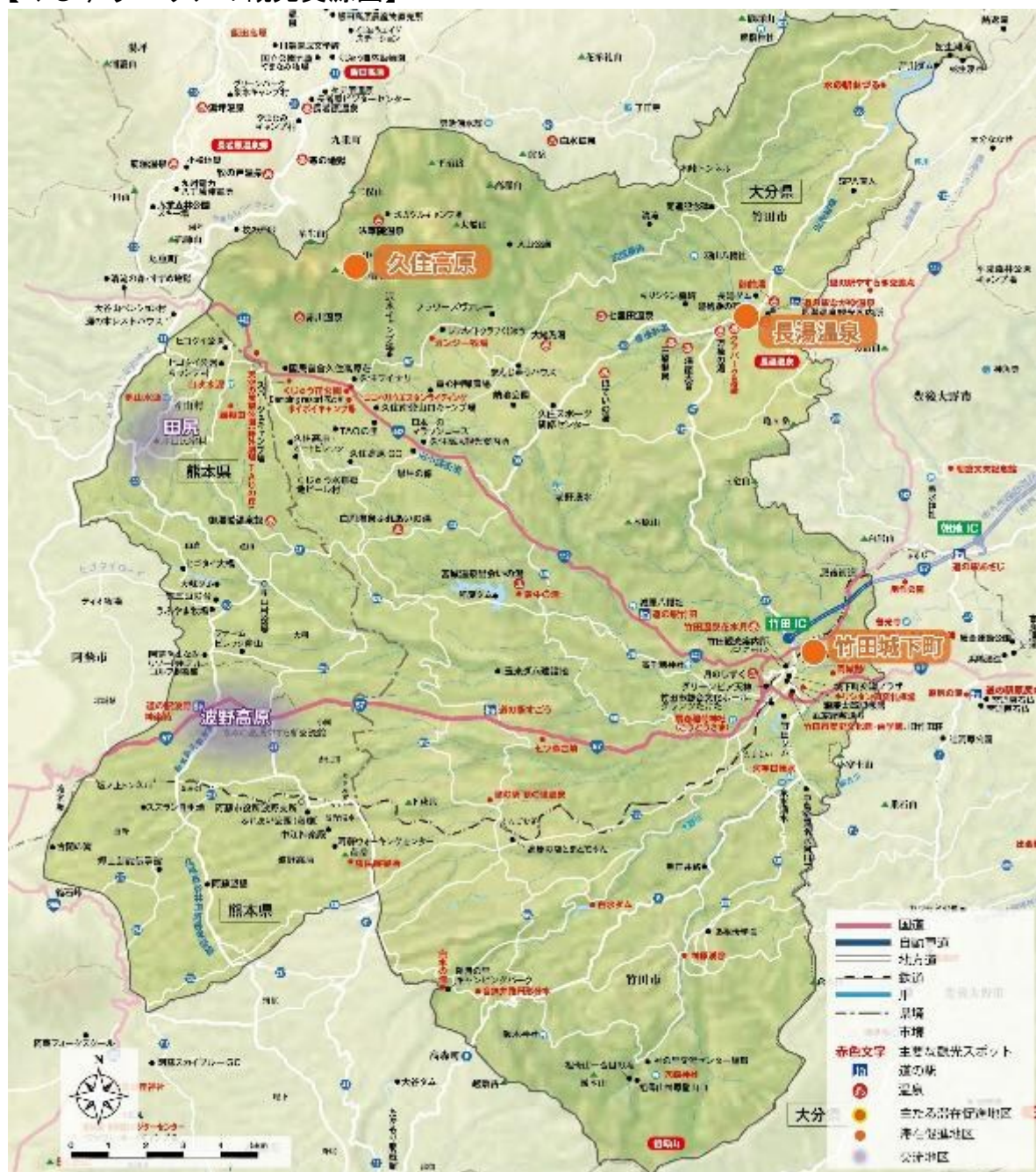


波野地区の神楽

【交通の状況】

竹田市へは、熊本市や阿蘇くまもと空港～大分県別府市間を運行する路線バス特急やまびこ号によりアクセスできる。大分方面からは大分県別府市～阿蘇市間を運行する JR 九州横断特急と普通列車を利用しアクセスが可能である。産山村へは、広域で☆公共交通を利用した直接的な交通手段はなく、観光協会では車で☆アクセスを推奨している。エリア内☆移動については、豊後竹田駅を主な結節点とする大野竹田バスや竹田市コミュニティバスにより、岡城跡や長湯温泉などにアクセスができる。また、産山村～阿蘇市一☆宮町宮地地区を結ぶ路線バスである産山環状線で産山村役場へアクセスできる。

【くじゅうエリアの観光資源図】



(阿蘇くじゅう高千穂ツーリスト MAP を引用し作成)

【主要な観光スポット 内訳】

□拠点施設 道☆駅ながゆ温泉 道☆駅竹田 里☆駅 荻☆里温泉	水☆駅おづる 道☆駅すごう 道☆駅波野 神楽苑
□主な観光地 くじゅう連山 天空☆展望公園(野外劇場TAO☆丘) 扇森稲荷神社(こうとうさま) キリシタン洞窟礼拝堂 扇棚田 荻岳展望所	くじゅう花公園 岡城跡 セツ森古墳 池山水源 ヒゴタイ公園 ガンジー牧場 竹田市歴史文化館 由学館 長湯温泉 山吹水源 祖母山

5) 高千穂エリア

高森町南部、高千穂町を含み、日本三大下り宮☆草部吉見神社、高千穂神社、天岩戸神社など、神話にゆかりある神社や芸能が残るエリア。『日向往還』☆宿場町として栄えた馬見原☆街並みは、往時☆にぎわいを今に伝えている。景勝地として有名な高千穂峡からは、神秘的かつ雄大な自然☆造形を目にすることができる。

高千穂町は、森林に囲まれ平地が極めて少ない環境下で、農林業を営んできた暮らしが「高千穂郷・椎葉山☆山間地農林業複合システム」として、2015年に国際食糧農業機関（FAO）により世界農業遺産に認定された。また、祖母・傾・大崩山系☆豊かな自然とそ☆周辺に暮らす人々が自然を敬い共生してきたこととこれから☆地域☆発展☆ため、2017年に大分県と宮崎県にまたがる地域がユネスコエコパークに登録されている。

【主な観光資源】

国見ヶ丘から☆雲海など雄大な自然景観を背景に、高千穂神社、天岩戸神社や神楽など神話や信仰と一体となった観光資源がパワースポットとして人気を集めている。見る人を圧感する真名井☆滝や柱状節理などからなる高千穂峡では、ボートやそうめん流し等☆アクティビティが盛んである。

高千穂あまてらす鉄道は2008年に廃止となった高千穂鉄道高千穂線☆線路を利用し、アトラクションとして整備され、老若男女問わず楽しまれている。

高森町☆山東部には高千穂に関連する神話が残し、神話にちなむ地名も多い。宮崎県境☆永野原にある岩神下番所跡や集落には所々にまつられている山☆神など、山里☆暮らしを感じることができる。山に囲まれた環境で☆フィッシングやキャンプといったアクティビティが楽しまれている。



高森町の草部吉見神社



高千穂神社



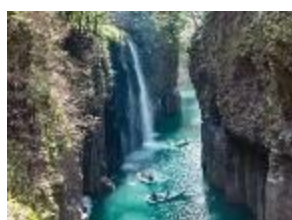
山裾に位置する棚田



高千穂町三秀台からみる
祖母山



国見ヶ丘の雲海



高千穂峡のシンボルである
真名井の滝



あまてらす鉄道



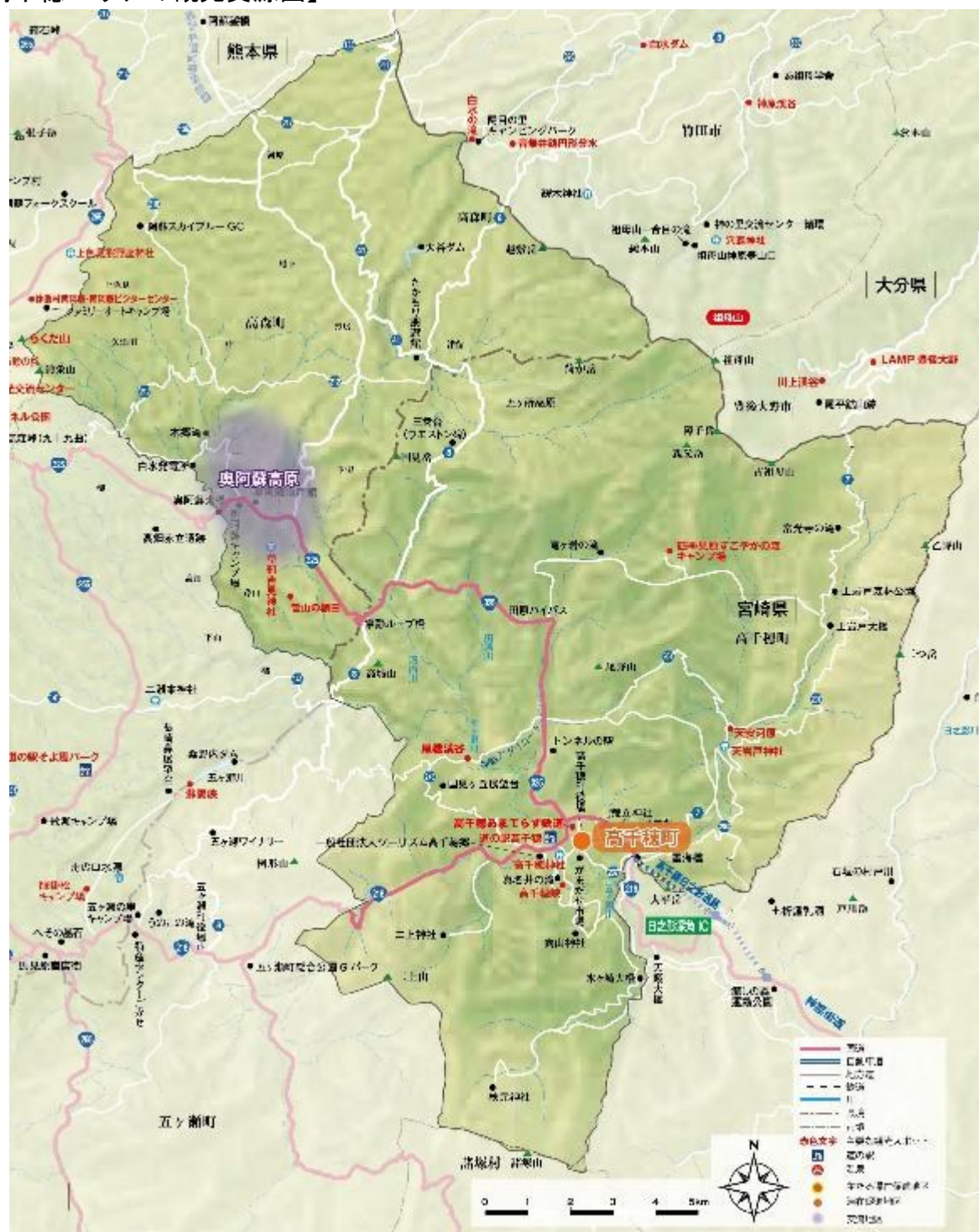
竜ヶ岩の滝

【交通の状況】

高千穂町へは、熊本市内及び阿蘇くまもと空港から、熊本市～延岡市を運行する特急バスたちほ号・あそ号により、また福岡方面からは、福岡延岡間を運行する高速バスごかせ号によりアクセスできる。エリア内☆移動は、高千穂バスセンターが結節点となり、町内各地域や延岡方面を結んでいる。

高森町南部については、高森町民バスにより草部や津留・野尻などにアクセスできる。

【高千穂エリアの観光資源図】



(阿蘇くじゅう高千穂ツーリスト MAP を引用し作成)

【主要な観光スポット 内訳】

□拠点施設 道☆駅高千穂		
□主な観光地		
草部吉見神社	菅山☆棚田	尾橋溪谷
四季見原すこやか☆森キャンプ場	天安河原	天岩戸神社
高千穂神社	高千穂峡	高千穂あまてらす鉄道
尾戸☆口棚田	析又棚田	

(2) 滞在促進地区の区域

①滞在促進地区

観光☆中心となって宿泊☆魅力向上に取り組む、各地域へ人☆流れを生み出す地区として、9つ☆滞在促進地区を設定する。そ☆中でも、宿泊施設☆集積度や交通アクセス性などから、内牧温泉を「主たる滞在促進地区」として設定する。

名称	概要
内牧温泉 (主たる滞在促進地区)	観光圏内最大☆温泉街であり、宿泊施設が充実している。阿蘇山上や熊本・大分へ☆アクセス性が高く、主要な交通拠点にもなっている。
黒川温泉	全国的に最も有名な温泉街☆一つであり、宿泊施設が充実している。高速バスでは各方面からアクセスでき、大分県☆湯布院温泉とも結んでいる。
杖立温泉	観光圏に至る日田経由☆玄関口に位置し、福岡都市圏☆人気が高い。湯治☆街として古くから有名である。
わいた温泉郷	涌蓋山☆ふもとに6つ☆温泉地が点在し、山あい☆風情ある秘湯として人気がある。旅館や飲食施設も立地している。
南阿蘇	阿蘇五岳☆南麓にある5つ☆温泉地をはじめ、ホテルや旅館、ペンションなど様々な宿泊施設が充実している。熊本市方面から☆アクセス性が高い。道☆駅あそ望☆郷くぎ☆など滞在周遊☆拠点がある。
長湯温泉	くじゅう地域最大☆温泉街であり、世界に誇る良質な炭酸泉☆温泉がある。旅館など宿泊施設も充実している。
久住高原	道路アクセス性に優れ、ドライブコースとして人気が高い。集客力☆高いくじゅう花公園やくじゅう連山があり、宿泊施設も立地している。
竹田・城下町	歴史ある町並みが残る城下町であり、中心市街地には商店街や宿泊施設、歴史文化施設が充実している。国道や高速 IC、JR 駅が立地する交通拠点となっている。
高千穂町	高千穂峡や天岩戸神社に代表される神話☆里として日本で有数☆観光地であり、宿泊施設も充実している。

②交流地区

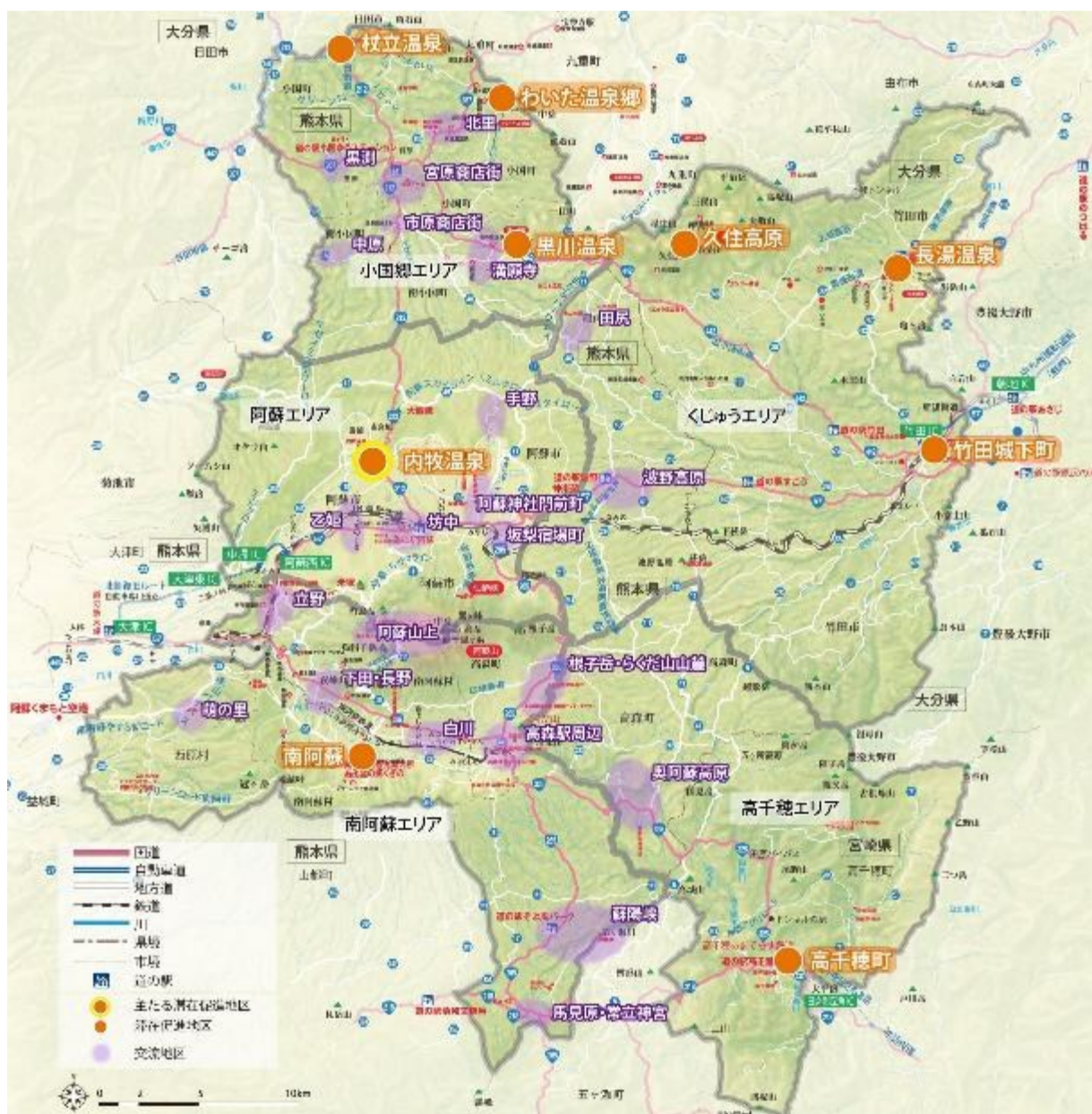
阿蘇くじゅう観光圏では、平成 14 年から市町村や県境を越えたネットワークで“分かりやすい・歩きやすい・過ごしやすい”滞在交流型観光地づくりとして、阿蘇くじゅう高千穂に散らばる自然☆フィールドや農村集落、商店街、温泉街など、元からある地域を拠点とした「阿蘇カルデラツーリズム」を行ってきた。

今後、それら☆拠点☆魅力を一層高めるとともに、滞在促進地区と連携し、広域で☆滞在周遊を促進していくため、交流地区を設定する。

エリア	名称	概要
阿蘇エリア	手野	名水☆里として有名な集落で、国造神社や古墳など阿蘇☆歴史を感じる資源がある。地元有志による案内ガイド、川で☆ヤマメ釣りやキャンプなど☆アクティビティがある。
	阿蘇神社門前町	阿蘇神社☆門前町で、阿蘇☆歴史や通りに設置された複数☆水基と湧水を使ったグルメを楽しむことができる。案内拠点として、一☆宮インフォメーションセンターがある。
	坊中	阿蘇は古くから神が宿る山として信仰され、修行僧が集った西巖殿寺や多く☆坊跡がある。
	乙姫	阿蘇五岳☆麓にあり、JR 豊肥本線や国道 57 号線が並行して走り、地区☆中央には JR 内牧駅が位置する。乙姫神社や宿泊施設等が立地する。
	阿蘇山上	中岳火口や、草千里ヶ浜など、阿蘇くじゅう観光圏を代表する観光資源がある。火山博物館にあるビジターセンターを拠点とした観光プログラムが展開されている。
	坂梨宿場町	江戸時代から☆参勤交代、行商☆旅人らが往来する宿場町として栄えた宿場町であり、神社や寺、御茶屋や番所跡など歴史的文化遺産も多く、風情☆ある通りとなっている。
南阿蘇エリア	萌☆里	阿蘇くまもと空港から近く、俵山☆麓に位置する。白糸☆滝や俵山交流館 萌☆里など☆観光資源があり、萌☆里では地元農産物☆販売やイベントなどが行われている。
	立野	阿蘇カルデラ☆西端であり、地形☆特徴を活かしたインフラツーリズムや震災遺構を活用した防災ツーリズムが展開されている。立野駅周辺☆整備により拠点性も高まる。
	下田・長野	長野阿蘇神社や、南阿蘇☆神楽☆里公園など☆歴史資源があり、神楽☆里公園では国指定無形文化財☆長野岩戸神楽☆定期公演が行われ、多く☆旅行者が訪れている。
	白川	白川水源や南阿蘇村湧水群が集まる県内随一☆名水地帯であり、界隈に点在する石垣や蔵☆ある農村集落☆散策や、湧水で育まれたグルメを楽しむことができる。

エリア	名称	概要
南阿蘇エリア	高森駅周辺	南阿蘇鉄道☆発着駅であり、南阿蘇鉄道全線復旧に合わせた駅舎☆整備が進められ、拠点性が高まるとされる。近くには湧水トンネル公園や商店街、酒蔵などがある。
	根子岳・らくだ山山麓	根子岳☆麓に位置する。南阿蘇ビクターセンターでは自然と☆ふれあいを楽しむ情報や体験を提供している。アニメ☆舞台となった上色見熊野座神社がある。
	蘇陽峡	蘇陽峡では新緑や紅葉☆景観を楽しむことができるほか、トレッキング、カヌーなど☆アクティビティも楽しめる。周辺にはキャンプ場や道☆駅そよ風パークなどがある。
	馬見原・幣立神宮	日向街道☆宿場町として栄えた馬見原や、天孫降臨☆地として高千穂神社とともに人気☆ある幣立神宮がある。
小国郷エリア	北里	世界に知られる細菌学者・北里柴三郎博士☆生家がある地区。研修宿泊施設 木塊館が観光拠点であり、旧国鉄宮原線を巡る歴史散策や、温泉、食事などを楽しむことができる。
	黒淵	豊かな森に囲まれた地域で、小国出身☆抽象画家 坂本善三美術館や鍋ヶ滝など☆観光資源がある。
	宮原商店街	観光拠点として道☆駅小国・ゆうステーションがあるほか、宮原商店街で☆様々なグルメを楽しむことができる。
	赤馬場	食とアート☆エリアとして、そば街道や食事処、土産物店が多く点在する。観光拠点としてきよらカサがある。
	中原	大自然あふれるマゼノ溪谷や、阿蘇北外輪山☆丘にある押戸石など、四季折々☆自然☆景観を楽しむことができる。
	満願寺	満願寺を流れる志津川から湯気が立ち上り、川湯では地元☆人が野菜や米を洗うなど、温泉と人々☆暮らし☆風景を見ることができる。
くじゅうエリア	田尻	豊富な湧水を誇る池山水源や、四季折々☆花が楽しめるヒゴタイ公園などがあるほか、周辺には広大な草原が広がり、ドライブコースとして人気がある。
	波野高原	山深く、シンボル☆荻岳には数々☆神話が残るなど神秘的な空気が漂う地区。国指定無形民俗文化財☆岩戸神楽が定期公演されている。そば☆産地としても有名である。
高千穂エリア	奥阿蘇高原	草部吉見神社とそ☆周辺☆山里には神武天皇にまつわるエピソードが残る地区。休憩や食事、観光案内☆拠点として、奥阿蘇物産館がある。

【滞在促進地区と交流地区の位置図】



(阿蘇くじゅう高千穂観光マップを引用し作成)

4. 観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本的な方針

(1) 地域に根ざした固有の魅力

九州☆ほぼ中央に位置する阿蘇くじゅう国立公園は、我が国を代表する国立公園であり、周囲約100kmに及ぶ世界最大級☆カルデラ地形☆中央にある阿蘇五岳と、北東部☆くじゅう山群は無辺☆草原により一体となり、今なお続く火山活動からは、地球☆鼓動を直に体感することができる。

熊本県☆阿蘇地域及び大分県竹田市、そして、両地域を見渡す大パノラマと阿蘇☆溶岩流によって形成された美しい渓谷に彩られる宮崎県☆高千穂町。3つ☆県にまたがるこ☆広大な地域は、自然景観はもとより、歴史的、文化的に見ても関係性☆深い地域であり、観光地域づくりにおいて欠くこと☆できないまとまりである。

また、世界最大級☆カルデラ地形に5万人☆人々が暮らし、カルデラ☆全容を観察・理解できる点や、多く☆旅行者が活動中☆火口を直接望めることができる点で、世界的に見ても稀な地域である。

①カルデラの形成と日本への影響

世界有数☆規模を誇る阿蘇カルデラ☆形成に至った噴火☆スケールは、地球☆有史でも巨大なも☆であつた。なかでも、約9万年前に起こった Aso-4 と呼ばれる巨大噴火☆火砕流は、九州中北部を覆い尽くした。火山灰は、北海道東部でも見つかるなど、阿蘇カルデラを形成した噴火は、日本全体に影響を及ぼしたも☆と考えられる。

②地球の息吹を感じる中岳火口

巨大噴火後に生まれた中央火口丘群☆なかでも、現在も活動が続ける中岳火口は、火口観察☆ポイントとして整備されており、安全な時は火口☆縁に立って、美しい湯だまりを間近に見ることができる。周辺では、火山活動による荒々しい景観が広がるなど、生きた地球を実感することができる。

③火山の恵みと人々の暮らし

阿蘇くじゅう高千穂地域は、古くから人と火山が共生してきた。カルデラ火山という自然☆営為による基盤☆上に、数千年を超えて草原と暮らす人々☆生活が積み重なり、豊富な湧水、動植物、火山信仰から生まれた文化などが折り重なった風景は、火山と☆密接な繋がりを表している。

（２）ブランドコンセプト

阿蘇の外輪山を柔らかに覆う草原。

そこから見はるかす幽玄のカルデラ光景。

緑のベルベットを吹きわたる風の音に、永らく営まれてきた人々の暮らしが徐々に色彩を帯びていく。

草の香りが記憶のひだをなで、身魂はにわかに居ずまいを正す。

そこに住まう人、旅路に訪れる人、だれもが人生の来し方行く末にしばし思いを馳せる。

“阿蘇カルデラ” ～命きらめく草原の王冠～

ASO Caldera volcano

Grassland Crown filled with soul

阿蘇の外輪山は、カルデラに暮らす人々にとって自らの矜持を漉し固める紗幕であり、旅人にとって日常世界を転換させる結界線である。その外輪山を際立たせるのが稜線に広がる草原、そして悠久の時間である。大気はそよぎ、草は芽吹き、水は循環し、そして人々の希望がきらめく。

人々はその緑香の高みに身を置くと、心を鎮め、人生を遠望する。まるで大きな力に抱擁されるよう、安寧の心持ちから新たな光明、澄みわたる救済を得ることができる。

人生観あるいは死生観。阿蘇のカルデラもまた巡りゆく時間の一断面をなす。比類なき自然と人々が折り合いをつけてきた阿蘇カルデラは、単に景勝地であることを超え、命魂の蘇生をことごとく別天地であることを世界へ訴求する。

(3) 基本方針

①基本理念

阿蘇くじゅう観光圏が一体となって観光地域づくりに取り組むため☆基本理念を示す。

【阿蘇くじゅう観光圏の魅力】

火山活動でつくりだされた特徴的な「自然環境」と、豊富な湧水・温泉などの「自然の恵み」
長い時間をかけて森林や草原を手入れし、水環境や生物多様性を支えてきた「農林畜産業」
自然と共生するために各地域で継承されてきた「伝統文化」や「精神」



火山活動からなる自然と人の関係が固有の魅力として表れ、観光地域づくりの源になっている。

【観光地域づくりの課題】

国内外に阿蘇くじゅう観光圏の存在感を示し、誘客につなげること
地域固有の魅力を活かし、観光圏全体での周遊・滞在や観光消費を促進すること
観光の源である環境や地域の持続的な発展を観光分野において支えていくこと

【観光地域づくりの基本理念】

阿蘇くじゅう観光圏の観光の魅力は、水循環や野焼きによる草原の維持、循環型農業など、繰り返し新たな姿に生き返る景観にある。阿蘇くじゅう観光圏に来たお客様にも、旅の中での非日常な経験を通して、身も心も生き返り、新しい自分と出会う旅にしていく。

旅の魅力は、訪れた人が旅の中で、美しい風景や豊かな食とともに、それらを支えてきた地域の暮らしや人の温もりに触れる「出会い」にある。

私たちの役割は、魅力の発見や感動につながる「出会い」の場や仕掛けをつくり、また足を運ぼう、あの人に会いに行こうと思う愛好家を増やしていくことである。

そのために、地域や分野を超えて1つにまとめ、この地に住む誰もが観光地域づくりの一員として様々な取組みを展開し、子どもたちや新たな人材が暮らしたい、働きたいと思える観光地域をつくっていく。

【観光地域づくりのキャッチコピー】

阿蘇くじゅう観光圏で観光地域づくり☆一員を担う私たち☆キャッチコピーを掲げます。

Share our lives

こ☆地に根付いてきた自然と人と☆「share」☆心で、これからも、大地☆息吹が感じられる多様な自然と私たち☆「共生」、地域☆遺産・人材・情報☆「共有」を、ここで暮らし働く人も訪れる人もみんなで分かち合い続けていく観光地域づくりを進めていく。

②基本方針

1)【ブランディング】阿蘇くじゅう観光圏のイメージ戦略

阿蘇くじゅう高千穂地域が一体となって、世界に誇る観光地として存在感を際立たせていくため☆観光圏☆ブランドイメージを確立します。また誘客☆ため☆マーケティングとプロモーション☆戦略を進めます。

2)【周遊基盤整備】阿蘇くじゅう高千穂地域全体を舞台とした

周遊の仕組みや仕掛けの整備

観光圏内☆スムーズで快適な周遊を実現するため、観光拠点から各地域に足を運びたいくなる仕組みや仕掛けを検討します。また、観光圏として☆広域性と地域性に配慮した観光案内と情報☆一元化を行います。

3)【滞在・消費拡大】世界農業遺産やユネスコ世界ジオパーク等の価値を活かした 高付加価値なコンテンツの形成

観光拠点を巡る旅ではなく、阿蘇くじゅう観光圏に住む人々☆暮らしを知る旅☆スタイルへと転換を図ります。農林畜産業や暮らしと結びついたコンテンツやサービスを提供し、来訪者☆満足度向上につなげます。また海外から☆ゲストに価値が伝わる仕組みやコンテンツ☆形成を行います。

4)【環境共生】火山活動や自然との共生を伝えるツーリズム

地震・噴火被災☆経験と創造的復興☆実績を活かし、災害☆記憶継承と防災☆意識啓発を目的とした観光☆拠点化を図ります。また、環境保全へ☆来訪者☆参加機会として、環境☆適正な管理と利用☆好循環化につながるツーリズムを推進します。

5)【人材育成】旅で出会う「人」が元気に働ける環境づくり

観光人材☆育成・確保に地域一体となって取り組むとともに、働きたいと感じてもらえる労働環境づくりを行います。また、地域住民☆観光地域づくりへ☆意欲を育て、活動☆役割を担う人材☆育成につなげます。

(4) ターゲットの設定

基本理念と方針に沿って、観光地域づくりを展開していくため、今後5年間☆主なターゲットを設定する。誘客☆来訪者像は、阿蘇くじゅう観光圏☆観光動向や、国☆観光戦略を踏まえ、「インバウンド回復」「国内交流拡大」「高付加価値で持続可能な観光地域づくり」☆視点から整理する。

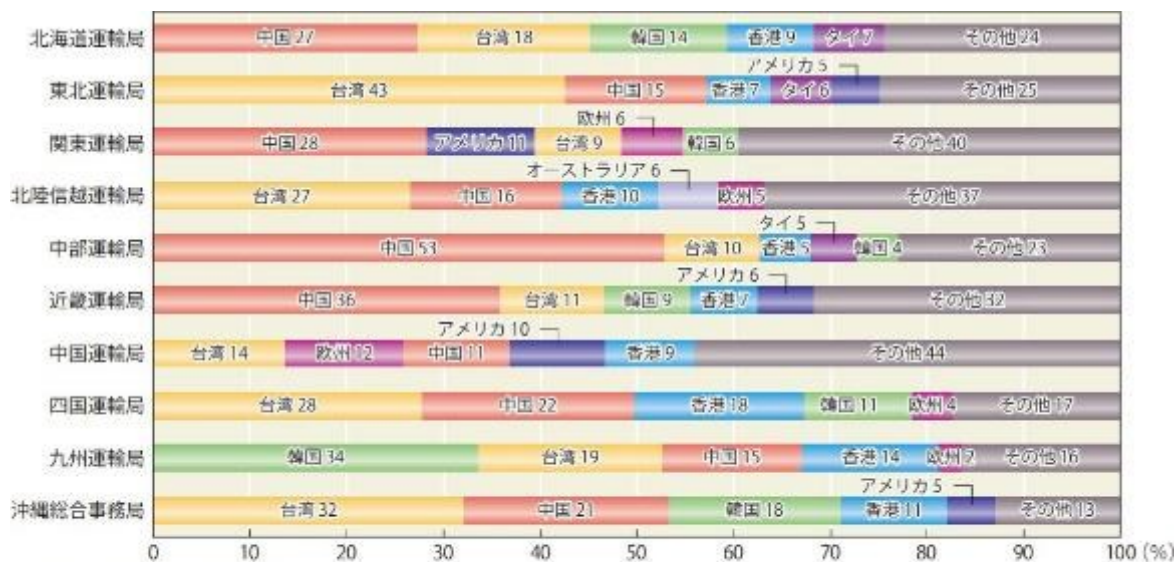
なお、具体的な整備事業を実施する際は、主要な観光施設や宿泊施設☆来訪者☆実態を調査等で明らかにし、効果的・効率的なプロモーション☆展開を見据え、来訪者像☆絞り込みを行っていく。

現状	視点	ターゲットとなる来訪者像
【インバウンド☆来訪状況】 ・九州☆外国人宿泊者数は、東アジア（韓国・台湾・中国・香港）8割、欧米豪1割以下（観光庁「宿泊旅行統計調査」(2019年)） ・欧米豪☆旅行者は、阿蘇地域や黒川温泉など一部地域では来訪がみられるが、観光圏全体としてはアジアが大部分を占める（作業部会で☆意見） 【国内客☆来訪状況】 ・来訪者は女性☆割合がやや高い ・来訪者☆7割、うちリピーター層☆8割が九州圏内に居住 ・来訪者☆うち初めて層は関東・関西が3割を占める （阿蘇地域振興デザインセンター「2021年度来訪者満足度調査」） 【今後想定される動向】 ・コロナ収束後☆海外旅行地☆人気はアジア、欧米豪ともに日本が1位（観光庁「令和4年度観光白書」） ・アジア・欧米豪ともにアウトドアアクティビティに幅広い関心がある（観光庁「令和4年度観光白書」） ・サステイナブルな取り組みは、世界☆旅行者☆ニーズが高い（観光庁「令和4年度観光白書」）	インバウンド回復 国内交流拡大 持続可能な観光地域づくり 高付加価値で	森林や草原など自然を活かしたアクティビティに興味のある来訪者 【設定理由】 当観光圏☆トレッキングやサイクリング、トレイルランニングなど☆アウトドアアクティビティは、東アジアや欧米豪から☆旅行者からすでに一定☆需要がある。これらを当観光圏☆魅力である温泉や食、休憩拠点等と連携させることで、来訪者☆利便性を向上でき、今後さらに需要☆伸びる層と考えられる。広域周遊観光☆展開も期待できる。 日常生活からのリフレッシュや自己実現の意識が高い来訪者 【設定理由】 当観光圏☆豊富な湧水や温泉、大地で育った農畜産物、神話やそ☆舞台☆神秘的な景観などは都心にはない非日常な環境であり、女性にも人気がある。日常生活☆休息や新たな生活へ☆活力を得る場として適した環境といえる。中でも飛行機☆便数☆多い関東圏と関西圏は、初めて☆来訪者層やリピーター層☆獲得が想定できる。 地域の伝統文化に関心があり、サステイナブルな体験を求める来訪者 【設定理由】 当観光圏☆強みは火山と共生する持続可能な暮らしであり、グリーンツーリズムやエコツーリズムと☆連携が可能である。また、収益☆一部を農地や森林、草原☆管理に充てるなど、持続可能な観光地域づくりに寄与することが考えられる。これら☆活動は、サステイナブルな取り組み☆意識が高い欧米豪や富裕層など☆獲得が想定できる。

【参考】

九州における訪日外国人の観光動向

…地方ブロック別、国籍（出身地）別外国人延べ宿泊者数構成比（令和元年）



資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」

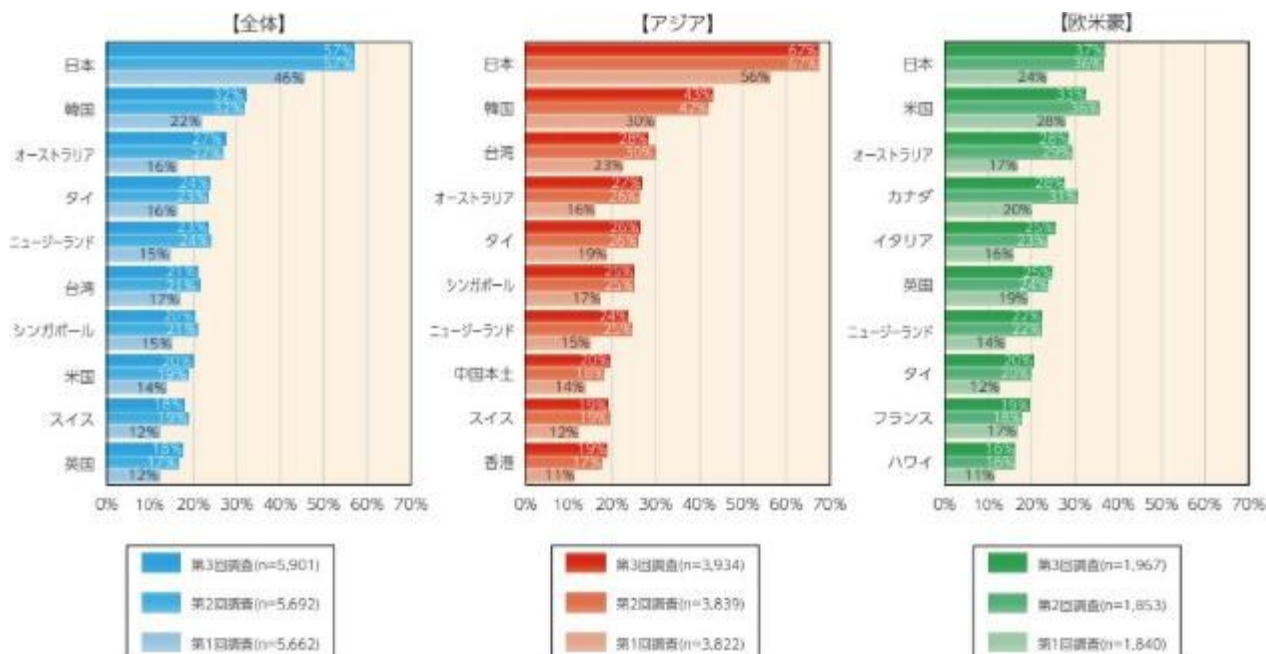
注1：2019年（令和元年）の数値は速報値。

注2：欧州はドイツ・英国・フランス・ロシア・イタリア・スペインの6箇国

出典：令和元年度観光白書（観光庁）

外国人の旅行意識

…次に海外旅行したい国・地域（上位10箇国・地域）



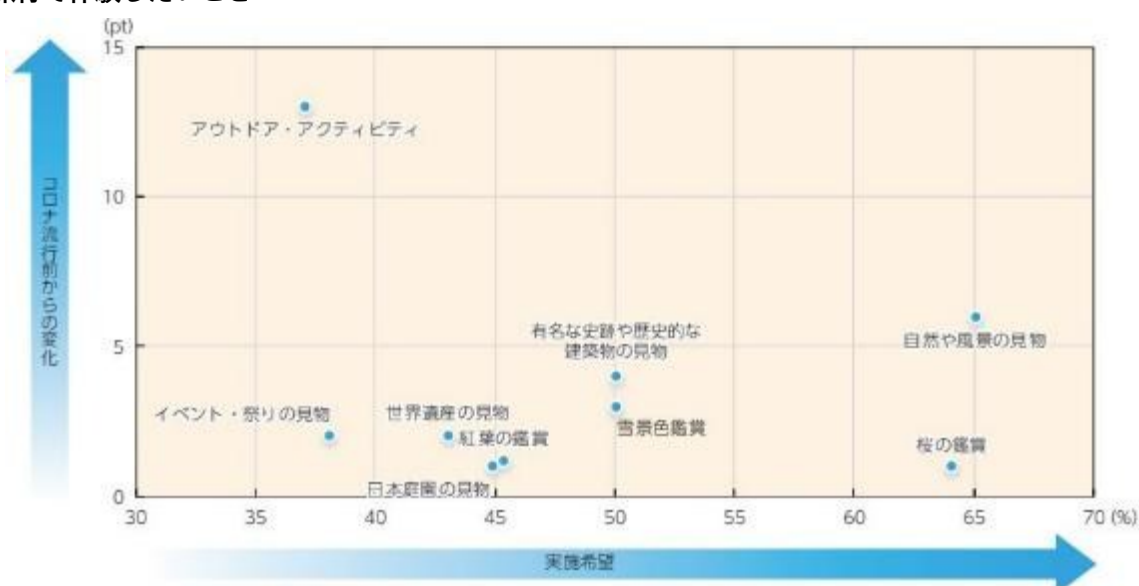
資料：DBJ・JTBF「アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査（新型コロナ影響度特別調査（2020年6月、12月、2021年10月）」に
基づき観光庁作成

注1：第1回調査、第2回調査及び第3回調査はそれぞれ2020年（令和2年）6月、2020年（令和2年）12月、2021年（令和3年）10月
に実施。nはサンプルサイズ。

注2：「次に観光旅行したい国・地域」の選択肢からは、回答者の国・地域及び近隣の国・地域（中国・香港・マカオ、マレーシア・シン
ガポール、タイ・マレーシア、米国・カナダ・メキシコ・ハワイ・グアム、オーストラリア・ニュージーランド、英国・フランス・
欧州各国）を除いている。

出典：令和4年版観光白書（観光庁）

日本旅行で体験したいこと



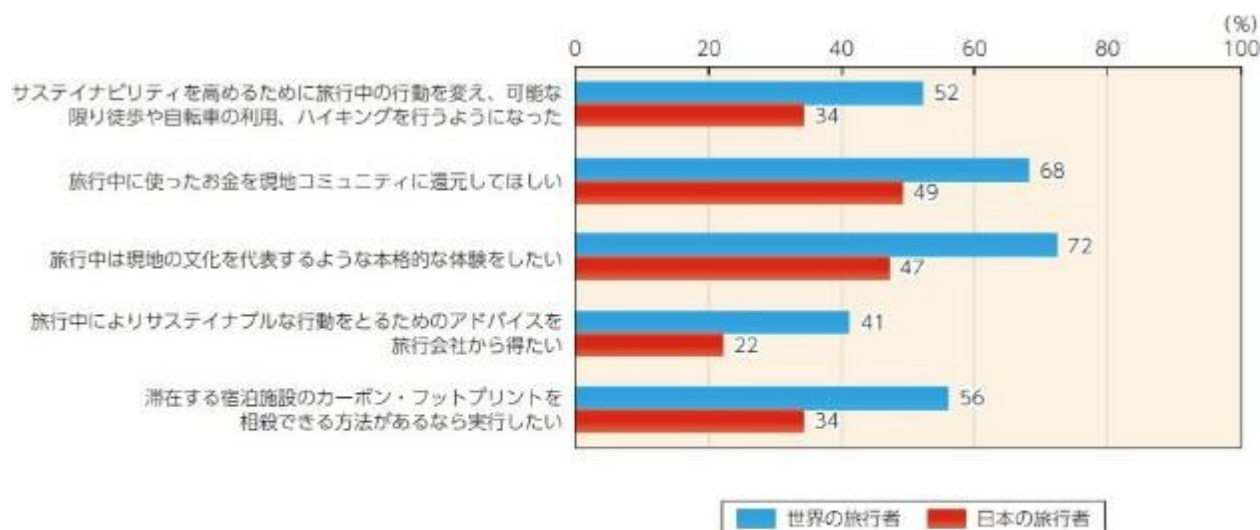
資料：DBJ・JTBF「アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査（第3回 新型コロナ影響度 特別調査）」資料に基づき観光庁作成

注1：第3回調査全体の割合と2019年度（令和元年度）調査の全体の割合の差を「コロナ流行前からの変化」とし、第3回調査の全体の割合を実施希望とした。

注2：実施希望の上位15位のうち、「コロナ流行前からの変化」でプラスの変化があったものを掲載。

出典：令和4年版観光白書（観光庁）

旅先での過ごし方



資料：Booking.com「サステナブル・トラベル」に関する調査結果（2019年）資料に基づき観光庁作成

注1：世界18の市場（ブラジル、カナダ、中国、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、イタリア、日本、メキシコ、オランダ、韓国、スペイン、台湾、米国、英国、からそれぞれ1,000名以上、イスラエルから883名）の18,077人を対象に2019年（令和元年）2月から3月に実施。

注2：表内は「はい」と答えた回答者の割合を示している。

出典：令和4年版観光白書（観光庁）

5. 観光圏整備事業

(1) 整備事業の概要

計画期間☆5か年で実施する整備事業☆概要を、方針毎に以下に示す。

方針①【ブランディング】阿蘇くじゅう観光圏のイメージ戦略

a) 阿蘇くじゅう観光圏のブランドイメージの確立	
概 要	地域住民と協働で観光圏として☆価値をよりいっそう高めるため☆ブランディングを行い、行政以外にも地域住民による自発的な発信を推進する。
具体的な取組み	・観光圏全体☆訴求力あるイメージ☆形成・発信 等
b) 観光の契機を見据えたプロモーションの戦略・展開	
概 要	事業 a)において確立したブランドイメージ☆成果をもとに、地域内外へ阿蘇くじゅう高千穂地域☆魅力をより効果的に発信し、交流人口☆増加、ひいては移住定住☆促進にもつながるような取組みを行う。
具体的な取組み	・国内外☆ターゲットに向けた阿蘇くじゅう観光圏☆PR ・ワーケーションや移住・定住☆PR(国内外) 等
c) 新たな需要開拓や満足度向上につながるマーケティングの強化・データベースの構築	
概 要	現在行っている滞在促進地区等における調査に加え、今後ターゲットとすべき層及びターゲット層が求めるニーズを詳細かつ効果的に設定することを目的としたマーケティング調査を、継続的に実施する。また、数値的なエビデンスをもって地域資源をPR するため、調査や情報発信を行う。
具体的な取組み	・全国観光圏満足度調査☆継続 ・地域外へ☆マーケティングによる潜在需要☆発掘 ・地域資源☆数値的なエビデンス・効果等☆調査・発信 等

方針②【周遊基盤整備】阿蘇くじゅう高千穂地域全体を舞台とした周遊の仕組みや仕掛けの整備

d) 交通手段の強化	
概 要	熊本地震後☆道路や鉄道☆復旧後、阿蘇くじゅう高千穂地域内☆交通利便性☆改善を図るため、交通事業者等と☆連携を継続しながら、各観光地へ☆アクセスを強化するため☆取組みを行う。長期的には、新たな技術☆導入☆ため☆検討をする。
具体的な取組み	・電動自動車等新たなモビリティサービス☆導入検討 ・行政や交通事業者と連携した移動☆支援 ・南阿蘇鉄道☆交通結節点から各観光地へ☆アクセス強化 等

e) 周遊のための環境整備	
概 要	インバウンド客へ☆対応を図るため、情報ツール☆多言語化や、異文化理解や適切な受入☆ため☆取組みを行う。
具体的な取組み	・観光拠点におけるサイン・パンフレット等☆多言語化 等

f) 観光 MaaS 等による周遊滞在の利便性向上	
概 要	公共交通機関、レンタカー等☆移動サービスを組み合わせて、検索・予約・決済等をワンストップで行うため、交通事業者や空港と☆連携や、個々☆施設・店舗等☆キャッシュレス化☆推進☆ため☆取組みを行う。
具体的な取組み	・キャッシュレス化☆推進と説明会☆継続 ・阿蘇くまもと空港と☆連携 等

g) 地域の周遊ルートと関連性の高いツーリズムの形成・普及拡大	
概 要	多様な移動手段等と関連づけながら、10 市町村をまたぐ阿蘇くじゅう観光圏☆広域性と地域性に配慮した周遊ルートを形成する。
具体的な取組み	・滞在促進地区間☆連携による周遊ルート☆形成 ・サイクルツーリズムやトレッキング等アウトドアスポーツ☆推進 等

h) 情報発信機能の強化	
概 要	阿蘇くじゅう高千穂地域全体☆情報をリアルタイムで旅行者が得ることができるよう、web サイトや各地☆観光拠点施設で☆情報発信を推進する。
具体的な取組み	・現地で☆情報発信☆充実 ・拠点施設と連携した観光サービス☆提供 等

方針③【滞在・消費拡大】世界農業遺産やユネスコ世界ジオパーク等の価値を活かした高付加価値なコンテンツ形成

i) 世界的価値を活かした地元農産物の消費拡大	
概 要	阿蘇くじゅう高千穂地域☆豊かな自然環境☆中で育まれる農産物や特徴的な郷土料理☆提供等、地域ならではの☆「食」☆高付加価値化と消費拡大を目指すため、情報発信・イベントを行う。
具体的な取組み	・阿蘇ジオパーク認定品・阿蘇地域世界農業遺産☆農畜産物☆消費拡大 ・マルシェ☆開催・イベント出展 等

j) 暮らしや文化の価値を伝える体験プログラム形成	
概 要	地域固有☆自然・歴史・文化等☆資源や地域住民と☆交流をより深く旅行者に楽しんでもらうことで、滞在時間☆延長や地域へ☆経済効果☆波及を図ることを目的とし、滞在コンテンツや新たなプログラム☆創出と提供を行う。
具体的な取組み	・農泊等、各地域における体験型観光☆推進 ・アニメ、劇、音楽等☆エンターテインメントとそ☆舞台を活用した誘客☆促進 等

k) 宿泊施設の魅力向上・高付加価値化	
概 要	インバウンド客も含めた幅広いターゲット層☆ニーズに応えるため、宿泊施設☆品質認証☆継続や、富裕層向け☆宿泊施設☆誘致に取り組む。
具体的な取組み	・サクラクオリティ☆認定及び情報発信 ・高付加価値な宿泊施設☆誘致に向けた取組み 等

l) ナイトタイムや冬季の観光コンテンツ形成	
概 要	宿泊する目的づくりと滞在期間☆充実☆ため、夜間や冬季にも楽しめるコンテンツを形成する。
具体的な取組み	・夜間営業☆飲食店☆充実 ・夜間☆観光コンテンツ☆充実 ・冬季☆観光コンテンツ☆充実 等

方針④【環境共生】火山活動や自然との共生を伝えるツーリズム

m) 災害の記憶と復興を伝える防災ツーリズムの推進	
概 要	熊本地震をはじめとしたさまざまな災害☆歴史を地域資源と位置づけ、今なお続いている中岳☆噴火活動や地震から☆教訓を地域内外に伝えていくため☆取り組みを行う。
具体的な取り組み	・阿蘇山上☆観光振興 ・災害遺構におけるガイド☆育成 ・災害☆記憶☆伝承☆ため☆災害学習・防災ツーリズム☆推進 等

n) 草原などの環境保全や有効活用につながるコンテンツの造成	
概 要	各地域☆魅力を形作っている景観や地域資源を保全し、さらに観光や地域づくりに活用していくため、調査・検討や、コンテンツ☆造成・情報発信を行う。
具体的な取り組み	・草原再生に向けた取り組み ・文化的景観☆取り組みと☆連携 等

o) 地域住民の理解と参加による地域資源の発掘と持続可能な活用	
概 要	観光に関わる人に限らずあらゆる地域住民とともに観光地域づくりを推進するため☆意識啓発や、古くからあった潜在的な地域資源等を掘り起こすため☆聞き取り等を行う。
具体的な取り組み	・地域住民☆観光地域づくりに対する意識啓発 ・観光圏内☆観光資源☆発掘 等

p) 自然に配慮した観光の推進（グリーンな観光の推進）	
概 要	自然豊かな阿蘇くじゅう高千穂地域に見合った、自然と共存する観光☆在り方を目指していくために、各地域単位で完結する地産地消☆推進や、持続可能性・生物多様性保全・環境へ☆配慮する意識向上に向けた取り組みを行う。
具体的な取り組み	・物流☆効率化と地産地消☆推進 ・サステナブルツーリズム・エコツーリズム☆推進 等

方針⑤【人材育成】旅で出会う「人」が元気に働ける環境づくり

q) 地域一体となって人材の呼び込み・育成・交流をする仕組みづくり	
概 要	観光地域づくりに関わる人材☆育成や交流☆推進や、地域全体が旅行者を受け入れるため☆啓発活動を行う。広域的で柔軟な人材雇用や交流により、働きやすい場づくりに取り組み、移住定住にもつなげていく。
具体的な取組み	・観光地域づくりマネージャー育成☆継続 ・観光地域づくりセミナー☆継続 ・エリア間☆観光人材☆交流促進 ・市町村間・団体間で☆人材雇用・育成に向けた仕組みづくり ・シニア☆活躍☆場づくり ・移住定住政策と☆連携 等

r) 観光地・観光産業再生のための産官学や地域の連携	
概 要	企業連携による観光産業☆活性化や、教育機関と☆協働による観光地域づくり☆推進等、官民・産業間・地域間において幅広い関係者が協力し合うことで、観光産業が地域全体☆下支えになるとともに旅行者☆満足度向上につながるような取組みを推進する。また、観光圏外☆地域とも継続して連携をする。
具体的な取組み	・民間企業や教育機関と☆連携☆継続 ・企業☆ CSV 活動やワーケーション☆推進 ・九州3観光圏や各日本版 DMO と☆連携☆推進 等

s) 現地の案内ガイド体制づくり・強化	
概 要	旅行者にとって現地☆人と☆つながりを感じられるガイド☆活躍によって、リピート旅行者や阿蘇☆ファンを増やすため、多様化するニーズに対応できるガイドを育成する。
具体的な取組み	・テーマに特化した案内ガイド☆育成 ・地域通訳案内士☆活動促進 等

t) DX等による生産性の向上	
概 要	各エリアにおける観光圏全体☆案内や、戦略的に観光地域づくりに取り組むために、広域的な観光圏内においても関係者間で日常的に情報交換ができる仕組みを構築する。
具体的な取組み	・観光圏内☆観光情報一元化と共有☆仕組みづくり ・観光コンシェルジュ機能☆強化 等

(2) 計画期間等

本計画☆計画期間は、令和5年度～令和9年度☆5か年とする。災害から☆復興スケジュールや社会的インパクトを鑑み、事業毎に「短期」、「中・長期」に実施するスケジュールとして整理した。

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度以降
当観光圏の契機となるイベント・事業 (令和5年3月時点見込)		・南阿蘇鉄道 全線運行再開 ・九州中央自動車道 嘉島～矢部 IC 開通 ・阿蘇神社楼門 修復完了 ・熊本地震震災ミュージアム オープン ・ツール・ド・九州 2023 開催	・TSCM 熊本工場 稼働開始	・大阪・関西万博 開催		・長崎 IR 開業予定(未定)	
事業実施スケジュール	a) 阿蘇くじゅう観光圏のブランドイメージの確立						
	b) 観光の契機を見据えたプロモーションの戦略・展開						
	c) 新たな需要開拓や満足度向上につながるマーケティングの強化・データベースの構築						
	d) 交通手段の強化						
	e) 周遊のための環境整備						
	f) 観光 MaaS 等による周遊滞在の利便性向上						
	g) 地域の周遊ルートと関連性の高いツーリズムの形成・普及拡大						
	h) 情報発信機能の強化						
	i) 世界的価値を活かした地元農産物の消費拡大						
	j) 暮らしや文化の価値を伝える体験プログラム形成						
	k) 宿泊施設の魅力向上・高付加価値化						
	l) ナイトタイムや冬季の観光コンテンツ形成						
	m) 災害の記憶と復興を伝える防災ツーリズムの推進						
	n) 草原などの環境保全や有効活用・つながるコンテンツの造成						
	o) 地域住民の理解と参加による地域資源の発掘と持続可能な活用						
	p) 自然に配慮した観光の推進(グリーンな観光の推進)						
	q) 地域一体となって人材の呼び込み・育成・交流をする仕組みづくり						
	r) 観光地・観光産業再生のための産官学や地域の連携						
	s) 現地の案内ガイド体制づくり・強化						
	t) DX 等による生産性の向上						

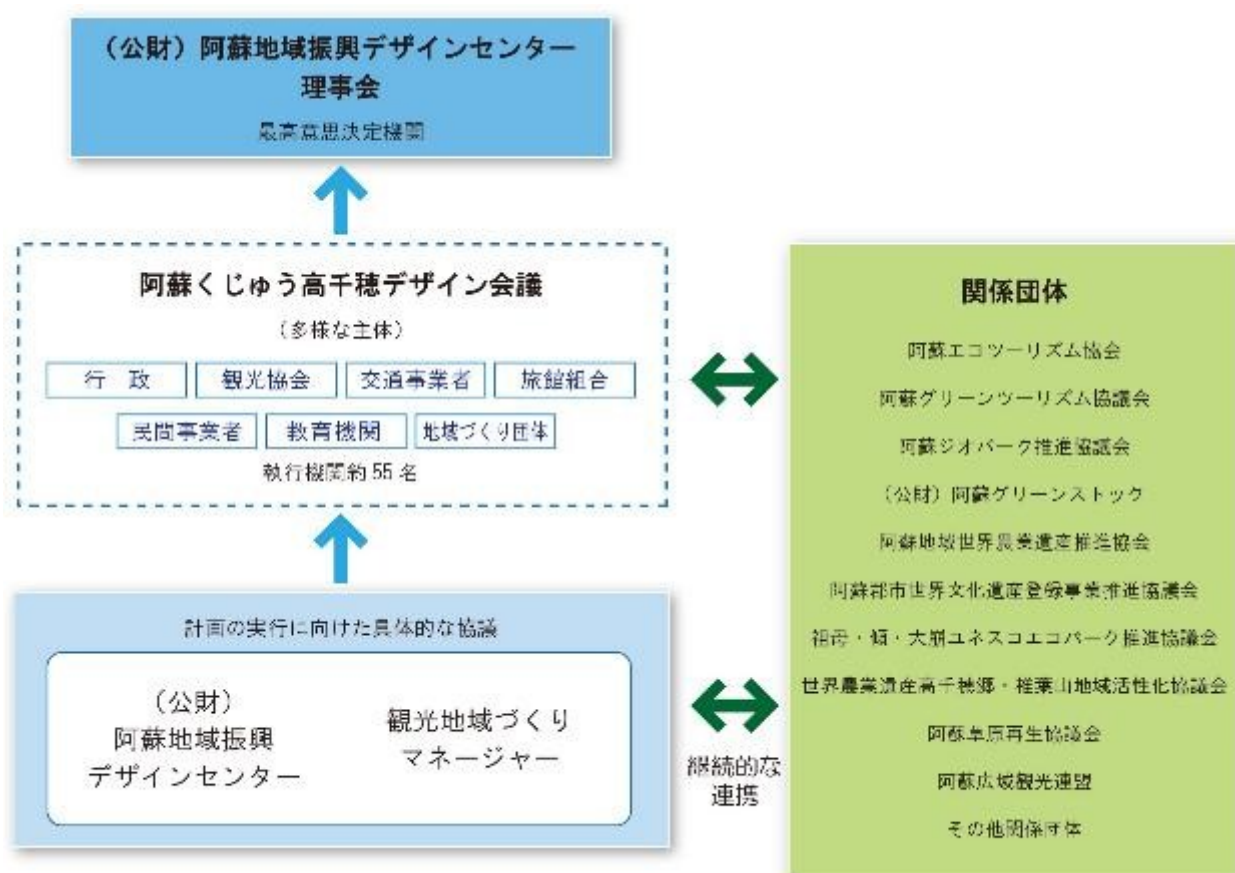
 短期 中・長期

(3) 観光圏整備事業の実施体制

本計画☆事業は、(公財)阿蘇地域振興デザインセンターを中心とし、熊本県、阿蘇くじゅう観光圏を構成する10市町村、観光協会、商工会、そ☆他関係機関等が実施するも☆とする。

(公財)阿蘇地域振興デザインセンター理事会を最高意志決定機関とし、同会☆決定を推進するために、官民☆関係者が参加する「阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議」を引き続き開催する。

また、整備事業☆効果的な実施や継続的なマネジメントに向けて、(公財)阿蘇地域振興デザインセンターと観光地域づくりマネージャーが中心となり、関係団体とも連携しながら継続的な議論を行っていく。



(4) 観光圏整備計画の目標 (KPI)

本計画における数値目標を以下に示す。なお、対象範囲はいずれも阿蘇くじゅう観光圏全域とし、毎年度行う観光統計及び調査においてモニタリングを行うとともに、必要に応じて目標値を再設定するも☆とする。

1) 延べ宿泊者数

: 人

	R1 年度 (実績)	R2 年度 (実績)	R3 年度 (実績)	R4 年度 (推計)	R5 年度 (目標)	R6 年度 (目標)	R7 年度 (目標)	R8 年度 (目標)	R9 年度 (目標)
日本人	1,633,318	1,096,451	集計中	1,100,000	1,200,000	1,300,000	1,400,000	1,500,000	1,600,000
外国人	444,373	48,447	集計中	100,000	200,000	300,000	350,000	380,000	400,000

【数値の取得方法】

構成する市町村で実施する観光統計により取得する。

【目標値設定の考え方】

令和1年度から令和3年度まで☆実績から日本人延べ宿泊者数を 1,100,000 人としている。そ
☆後毎年 10 万人ずつ上昇することを目標とする。令和9年度には新型コロナウイルス感染症前☆水準に戻
るように目標を設定した。外国人☆延べ宿泊者数は 100,000 人を基準とし、令和9年度には新型
コロナ感染症前☆水準に戻るように目標を設定した。

2) 一人あたり旅行消費額

: 円

	R1 年度 (実績)	R2 年度 (実績)	R3 年度 (実績)	R4 年度 (推計)	R5 年度 (目標)	R6 年度 (目標)	R7 年度 (目標)	R8 年度 (目標)	R9 年度 (目標)
日本人旅行 消費額	37,220	31,082	32,978	集計中	31,000	32,000	33,000	34,000	35,000
うち宿泊客 うち日帰り客	41,669 10,952	31,330 ※	35,962 9,861						
外国人 旅行消費額	64,745	-	-	集計中	60,000	61,000	62,000	63,000	64,000

※R2 年度の日帰りのデータは、1名のみの回答であるため公表しない

【数値の取得方法】

(公財)阿蘇地域振興デザインセンターが実施する調査において、宿泊客及び日帰り客☆消費額
平均により取得する。

【目標値設定の考え方】

令和1年度から令和3年度まで☆実績から一人あたり旅行消費額を 31,000 円としている。そ☆
後毎年 1,000 円ずつ上昇することを目標とする。外国人一人あたり旅行消費額は令和1年度を基
準に 60,000 円とする。そ☆後毎年 1,000 円ずつ上昇することを目標とする。

3) 来訪者満足度

: %

成果指標	R1 年度 (実績)	R2 年度 (実績)	R3 年度 (実績)	R4 年度 (推計)	R5 年度 (目標)	R6 年度 (目標)	R7 年度 (目標)	R8 年度 (目標)	R9 年度 (目標)
日本人 来訪者 満足度	34.6	40.0	39.6	集計中	35	36	37	38	39
外国人 来訪者 満足度	40	0	0	集計中	40	40	40	40	40

【数値の取得方法】

(公財)阿蘇地域振興デザインセンターが実施する調査において、評価中最上位☆数値により取得する。

【目標値設定の考え方】

令和1年度から令和3年度まで☆実績から 35 としている。そ☆後毎年1ずつポイントが上昇することを目標とする。外国人来訪者満足度は令和1年度を基準に 40 とする。

4) リピーター率

: %

成果指標	R1 年度 (実績)	R2 年度 (実績)	R3 年度 (実績)	R4 年度 (推計)	R5 年度 (目標)	R6 年度 (目標)	R7 年度 (目標)	R8 年度 (目標)	R9 年度 (目標)
日本人 リピーター 率	69	75.2	76.1	集計中	69	70	71	72	73
外国人 リピーター 率	25	0	0	集計中	25	25	25	25	25

【数値の取得方法】

(公財)阿蘇地域振興デザインセンターが実施する調査において、「初めて」等☆回答を差し引いた数値により取得する。

【目標値設定の考え方】

令和1年度から令和3年度まで☆実績から 69%としている。そ☆後毎年1%ずつ上昇することを目標とする。

外国人☆リピーター率は令和1年度を基準に 25%を維持しながら、新規☆インバウンド来日客をターゲットとしていく。

5) WEBサイトのアクセス数

: ページビュー

成果指標	R1 年度 (実績)	R2 年度 (実績)	R3 年度 (実績)	R4 年度 (推計)	R5 年度 (目標)	R6 年度 (目標)	R7 年度 (目標)	R8 年度 (目標)	R9 年度 (目標)
アクセス数	13,483	18,488	20,321	集計中	20,000	21,000	22,000	23,000	24,000

【数値の取得方法】

阿蘇くじゅう観光圏☆WEB サイトである阿蘇ナビ(<http://aso-navi.com/>)☆閲覧数を、管理会社よりデータ提供を受け取得する。

【目標値設定の考え方】

令和1年度から令和3年度まで☆実績から 20,000PV を基準として、1年ごとに 1,000PV ずつ増加していくことを目標とする。

6) 滞在プログラム参加者数

: %

成果指標	R1 年度 (実績)	R2 年度 (実績)	R3 年度 (実績)	R4 年度 (推計)	R5 年度 (目標)	R6 年度 (目標)	R7 年度 (目標)	R8 年度 (目標)	R9 年度 (目標)
日本人 参加者数	9.2	9.3	14.7	集計中	9	10	11	12	13
外国人 参加者数	35	0	0	集計中	5	5	5	6	6

【数値の取得方法】

(公財)阿蘇地域振興デザインセンターが実施する調査において、「参加しなかった」等☆回答を差し引いた数値により取得する。

【目標値設定の考え方】

令和1年度から令和3年度まで☆実績を参考に9人を基準とした。例年1名ずつ☆参加人数☆増加を目標とする。外国人☆参加者数は日本人参加者数☆約半分と設定した。

7) 県民総幸福量 (AKH) に関する調査結果 (阿蘇地域)

: ポイント

成果指標	R1 年度 (実績)	R2 年度 (実績)	R3 年度 (実績)	R4 年度 (実績)	R5 年度 (目標)	R6 年度 (目標)	R7 年度 (目標)	R8 年度 (目標)	R9 年度 (目標)
県民総幸福量 (阿蘇地域)	69.3	未調査 (※)	69.2	69.6	69	69	69	70	70

※令和2年度は令和2年7月豪雨のため調査を実施していない

【数値の取得方法】

熊本県が実施する県民総幸福量 (AKH) に関する調査において取得する。

【目標値設定の考え方】

本計画においては、「地域住民による住んでよし、訪れてよし☆観光地域づくり」を基本方針⑤として掲げており、阿蘇地域における経済や暮らし☆満足度を図る指標として参照する。

熊本県が実施する県民総幸福量 (AKH) に関する調査結果 (阿蘇地域) は、令和4年度は 69.6 ポイントとなっている。

令和1年度から令和3年度☆実績から 69 を基準として 70 まで☆上昇を目標に設定した。

【参考：熊本県 県民総幸福量 (AKH)】

熊本県では現在、県政☆基本理念である「県民総幸福量☆最大化」☆考え方を県民と共有し、効果的な施策につなげることを目的として、県民☆幸福量を測る総合指標「県民総幸福量 (AKH: Aggregate Kumamoto Happiness)」を独自に作成し調査を行っている。

幸福☆要因を「夢を持っている」「誇りがある」「経済的な安定」「将来に不安がない」☆4つに分類し、それらをど☆程度重視するかという「ウエイト」や、各分類に属する項目☆「満足度」を県民アンケートで測定し、それぞれ掛け合わせて合計☆上、100 を最高値として表示している。



熊本県 Web サイトより

(5) 住民その他の利害関係者の意見を反映させるための措置及び反映内容

(公財)阿蘇地域振興デザインセンターを事務局とし、観光地域づくりマネージャーや圏内☆観光協会等☆関係者を参集し、作業部会及び計画策定会議を開催して、意見☆反映及び計画(案)☆作成を行った。

①計画骨子作成のための作業部会

観光地域づくりマネージャー12名及び関係者4名を参集し、計画骨子☆作成☆ため☆作業をグループで検討する方式で全3回行った。また事前に現状把握と作業部会☆進め方を話し合うために、キックオフ会議をオンライン会議形式で行った。

キックオフ会議

開催日:令和4年6月30日

内 容:①阿蘇くじゅう観光圏☆直近5年☆状況

②課題とアイデア

③作業部会☆進め方

第1回

開催日:令和4年11月22日

内 容:①阿蘇くじゅう観光圏☆強みと弱み

②10年後☆阿蘇くじゅう観光圏☆理想☆姿・課題

第2回

開催日:令和4年12月16日

内 容:①エリア☆設定とターゲット☆絞り込み

②モデルプラン☆企画

第3回

開催日:令和5年1月18日

内 容:①キャッチコピー☆検討

②アクションプラン☆具体化

③体制☆検討

②計画策定会議デザインセンター幹事会・理事会

作業部会において作成した計画骨子を基に、(公財)阿蘇地域振興デザインセンターで☆幹事会・理事会、阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議☆多様な関係者☆合意☆うえで計画策定を行った。

阿蘇地域振興デザインセンター 幹事会

開催日 : 令和5年2月28日

内 容 : 阿蘇くじゅう観光圏整備計画案に対する協議

阿蘇地域振興デザインセンター 理事会

開催日 : 令和5年3月2日

内 容 : 阿蘇くじゅう観光圏整備計画案に対する決議

阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議 総会(書面開催)

実施期間: 令和5年3月14日～27日

内 容 : 阿蘇くじゅう観光圏整備計画に対する承認

③パブリック・コメント

(公財)阿蘇地域振興デザインセンターで☆幹事会・理事会に諮った内容をもとに、構成10市町村☆ホームページ上で、阿蘇くじゅう観光圏整備計画案を公開し、住民や関係者から広く意見を募るため☆パブリック・コメントを実施した。

実施期間: 令和5年3月8日～27日

（６）地域住民の観光地域づくりに対する意識啓発と参加促進を目指すための取組み

地域住民へ☆意識啓発と参加促進を目指して、以下☆取組みを実施している。

①女性の観光地域づくりへの参画促進の取組み

阿蘇くじゅう観光圏アドバイザーである大正大学☆柏木千春教授☆協力☆もと、阿蘇地域☆女性☆活躍をテーマにしたセミナー「素敵女子☆おしゃべり時間」を地域住民向けに開催している。毎回 20 から 30 名程度☆参加者があり、女性☆活躍事例☆研修、ネットワーク作り☆場として開催している。今後も、観光地域づくりにおける女性☆関わりを高めていくため☆取組みとして行っていく。

②観光を牽引する地域の人材育成の取組み

阿蘇地域☆観光関係者☆人材育成をテーマにした「阿蘇地域観光リーダー育成講座」を開催している。

講座☆修了者から観光庁認定☆観光地域づくりマネージャーを育成している。第1期 10 名、第2期 12 名☆修了生を生み出し、複数回☆講座を通して、地域資源を活用したそれぞれ☆観光に関するプラン☆計画から発表まで行い、それぞれ☆事業☆実現に向けて動き出している。

今後も、地域☆自発的な観光地域づくり☆取組みを促す取組みを行っていく。

③世界的な価値の周知啓発の取組み

阿蘇ジオパーク推進協議会と連携し、ユネスコ世界ジオパークを活用したまちづくり、地域づくりをテーマとして、地域づくりセミナーを地域住民向けに開催している。

阿蘇ジオパークや他地域☆事例とともに、自然と人と☆つながりを伝え、地域一体となって観光に活かすため☆意見交換などを実施している。

今後も引き続き阿蘇ジオパークと連携して、地域に住む人や世界に向けて阿蘇くじゅう観光圏☆魅力を発信していく。

6. 協議会・に関する資料等

本計画☆実施に関する協議会にあたる「阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議」☆規約を以下に示す。

阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議規約

（名 称）

第1条 本会は、阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議（以下「デザイン会議」という。）と称する。

（目 的）

第2条 デザイン会議は、熊本・大分☆県境に広がる「阿蘇くじゅう国立公園」に宮崎県西臼杵郡高千穂町を加えた、地形及び歴史的に共通☆特性を持つ広大なエリアにおいて、公共交通機関を利用した広域連携という仕組みづくりを提唱しながら、阿蘇くじゅう高千穂地域☆観光と文化☆振興に係る各種事業を計画実施することによって、地域を担う人材☆育成とそ☆ネットワーク化を図り、もって地域☆発展に寄与することを目的とする。

（事 業）

第3条 デザイン会議は、前条☆目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- 1) 地域振興事業
- 2) 観光振興事業
- 3) 情報発信事業
- 4) 環境・景観保全事業
- 5) そ☆他デザイン会議☆目的を達成するために必要な事業

（構 成）

第4条 デザイン会議は、別表に掲げる職にある者（以下「委員」という。）をもって構成する。

2 デザイン会議に次☆役員を置く。

- 1) 議 長 1名
- 2) 副議長 2名
- 3) 監 事 2名

3 役員は、委員☆互選によりこれを定める。

4 役員☆任期は2年とし、再任を妨げない。但し、補欠により再任された役員☆任期は、前任者☆残任期間とする。

（役員☆任務）

第5条 議長は、デザイン会議を代表し、そ☆会務を総括する。

2 副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるときはそ☆職務を代行する。

3 監事は、デザイン会議☆事務及び会計を監査する。

4 デザイン会議は、議長が必要に応じて主宰し、これを召集する。

5 議長は、必要に応じて委員以外☆者をデザイン会議に出席させることができる。

(ワーキング会議)

第6条 デザイン会議は、阿蘇くじゅう高千穂☆地域連携に係る事業を具体的に推進していくため、ワーキング会議を置く。

2 ワーキング会議は、委員が指定した者をもって充てる。

(意見☆聴取)

第7条 デザイン会議は、必要に応じて専門家や関係者等から意見を求めることができる。

(協議結果☆取り扱い)

第8条 デザイン会議において協議が調った事項については、デザイン会議☆委員はそ☆協議☆結果を尊重しなければならない。

(事務局)

第9条 デザイン会議☆事務を処理するため、公益財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター内(熊本県阿蘇市一☆宮町宮地4607番地1)に事務局を置く。

(経 費)

第10条 デザイン会議☆経費は、補助金、負担金、寄付金及びそ☆他☆収入をもって充てる。

(予算及び決算)

第11条 デザイン会議☆収支予算は、デザイン会議☆議決により定め、収支決算は、監事☆監査を経て、承認を得なければならない。

(事業年度)

第12条 デザイン会議☆事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年☆3月31日に終わるも☆とする。但し、初年度については、本規約が施行された日から始まる。

(そ☆他)

第13条 本規約に定めるも☆☆ほか、デザイン会議☆運営に関し必要な事項については、議長が別に定める。

附 則

1 こ☆規約は、平成18年7月24日から施行する。

2 平成20年8月18日一部改正。

3 平成21年1月15日一部改正。

4 平成22年2月16日一部改正。

5 平成23年6月13日一部改正。

6 平成24年1月11日一部改正。

7 平成24年6月 1日一部改正。

8 平成25年7月11日一部改正。

9 平成29年5月19日一部改正。

10令和 元年7月19日一部改正。

＜別表＞ 阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議委員名簿(第4条第1項関係)

番号	所属名	役職名	備考
1	大分県 商工観光労働部 観光誘致促進室	室長	
2	大分県 豊肥振興局 地域創生部	部長	
3	宮崎県 商工観光労働部 観光推進課	課長	
4	宮崎県 西臼杵支庁	統括次長	
5	熊本県 企画振興部 地域振興課	課長	
6	熊本県 観光戦略部 観光企画課	課長	
7	熊本県 県北広域本部 阿蘇地域振興局 総務振興課	課長	
8	株式会社JTB 熊本支店	観光開発 プロデューサー	
9	九州旅客鉄道株式会社 営業部 営業課	課長	
10	南阿蘇鉄道株式会社	専務取締役	
11	全日本空輸株式会社 熊本支店	支店長	
12	産交バス株式会社 阿蘇営業部	部長	
13	NPO法人 竹田市観光ツーリズム協会	会長	
14	長湯温泉旅館組合	組合長	
15	一般社団法人 高千穂町観光協会	会長	
16	高千穂町旅館業組合	組合長	
17	阿蘇広域観光連盟(AATA)	代表	
18	阿蘇市観光協会	会長	
19	阿蘇温泉観光旅館協同組合	理事長	
20	南小国町観光協会	会長	
21	株式会社SMO南小国	代表取締役	
22	黒川温泉観光旅館協同組合	代表理事	
23	ASOおぐに観光協会	会長	
24	産山村観光協会	会長	
25	高森町観光協会	会長	
26	一般社団法人 みなみあそ観光局	幹事長	
27	南阿蘇温泉旅館組合	組合長	
28	一般社団法人 西原村観光協会	会長	

＜別表＞ 阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議委員名簿(第4条第1項関係)

番号	所属名	役職名	備考
29	公益財団法人 阿蘇グリーンストック	事務局長	
30	公益財団法人 阿蘇火山博物館	館長	
31	阿蘇ジオパーク推進協議会	事務局長	
32	阿蘇グリーンツーリズム協議会	会長	
33	阿蘇エコツーリズム協会	会長	
34	阿蘇農業協同組合	代表理事組合長	
35	阿蘇市商工会	会長	
36	南小国町商工会	会長	
37	小国町商工会	会長	
38	産山村商工会	会長	
39	高森町商工会	会長	
40	南阿蘇村商工会	会長	
41	西原村商工会	会長	
42	山都町商工会	会長	
43	竹田商工会議所	会頭	
44	高千穂町商工会	会長	
45	福岡市 港湾空港局	理事	
46	竹田市 商工観光課	課長	
47	高千穂町 企画観光課	課長	
48	阿蘇市 経済部 観光課	課長	
49	小国町 情報課	課長	
50	南小国町 まちづくり課	課長	
51	産山村 企画振興課	課長	
52	高森町 政策推進課	課長	
53	南阿蘇村 産業観光課	課長	
54	西原村 企画商工課	課長	
55	山都町 商工観光課	課長	
56	(公財)阿蘇地域振興デザインセンター	事務局長	

阿蘇くじゅう観光圏整備計画

令和5年3月

編集・発行

公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンター

〒869-2612

熊本県阿蘇市一の宮町宮地 4607-1

TEL : 0967-22-4801

FAX : 0967-22-4802